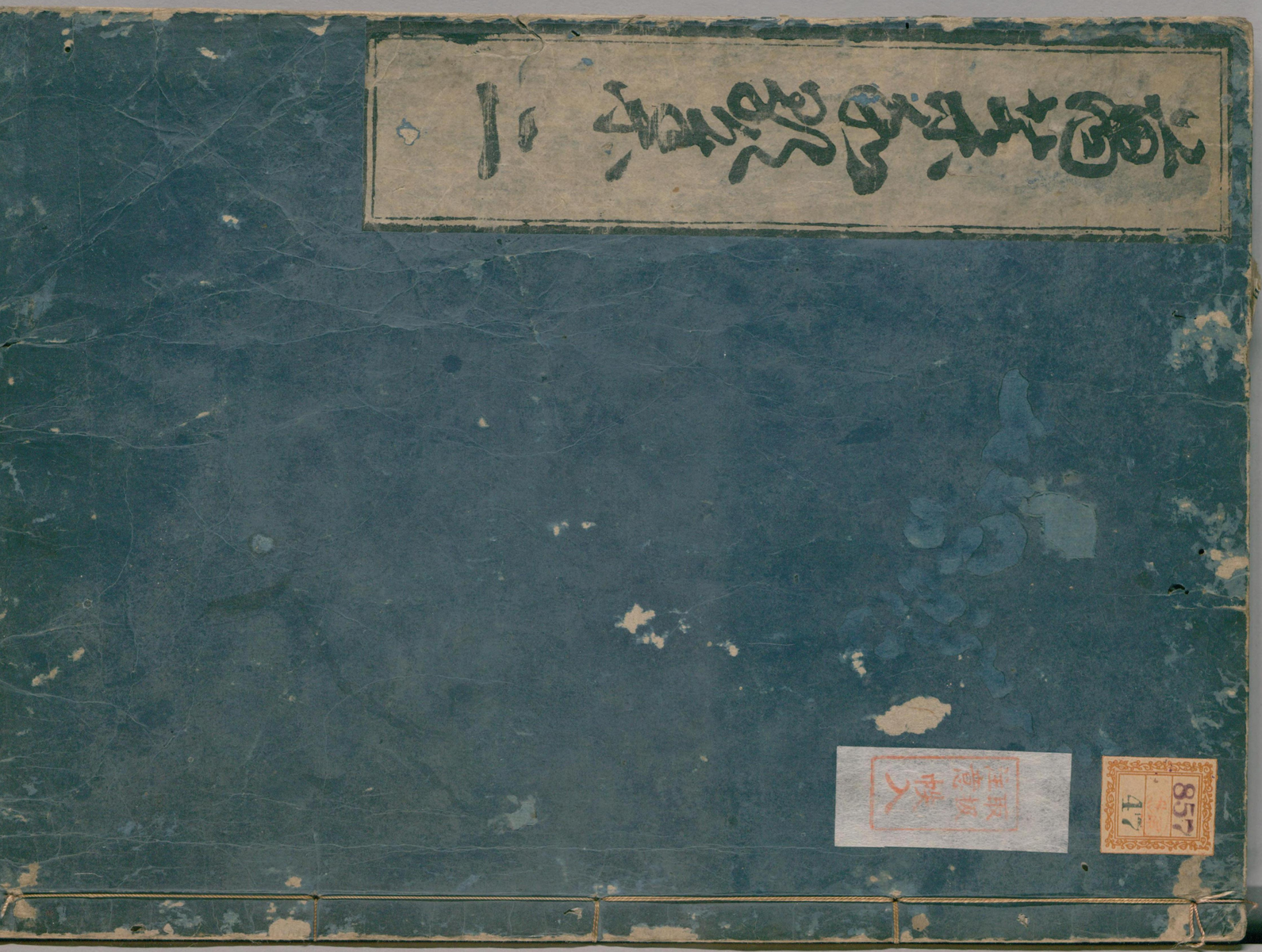
国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』請求記号 857-47
ガラス使用



萬葉集卷第二　長十九首　短百廿一首　合百五十首

帝國圖書館藏

難波高津宮御宇天皇代
磐姫皇后思(ニ)天皇(一)御作歌四首
（イハノヒメノスメミカサキ　サウモム）
或本歌一首
相聞

古事記歌一首

近江大津宮御宇天皇代
天皇賜(ニ)鏡王女(一)御歌一首
（カヾミノオホキミノムスメニ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

鏡王女奉和歌一首
内大臣藤原卿娉鏡王女時鏡王女贈内大臣歌一首
内大臣報贈鏡王女歌一首
内大臣娶采女安見兒時作歌一首
夕来禅師娉石川郎女時歌五首
大伴宿禰娉巨勢郎女時歌一首
巨勢郎女報贈歌一首

明日香清御原宮御宇天皇代
天皇賜藤原夫人御歌一首
藤原夫人奉和歌一首
藤原宮御宇天皇代
大津皇子竊下於伊勢神宮還上時大伯皇女御歌一首
大津皇子贈石川郎女御歌一首
石川郎女奉和歌一首

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

大津皇子竊婚石川女郎時津守連通占露
其事皇子御作歌一首
日並皇子尊賜石川女郎歌一首
幸吉野宮時弓削皇子賜額田王歌一首
額田王奉和歌一首
從吉野折取蘿生松柯遣時額田王奉入歌
一首
但馬皇女在高市皇子宮之時思穂積皇子
御作歌一首
勅穂積皇子遣於近江志賀山寺時但馬皇
子御作歌一首
但馬皇女在高市皇子宮時竊接穂積皇子
之事既形而後御作歌一首
舍人皇子御歌一首
舍人娘子奉和歌一首
弓削皇子思紀皇女御歌四首

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

所名官 三方沙彌娶園臣生羽之女未經幾時臥病
メトリテソノ、ヲムナリハ カ ニ イケル
作歌三首

石川女郎贈大伴宿禰田主歌一首
ニ ニ ニ

大伴宿禰田主報贈歌一首
ニ ニ ニ ル

石川女郎更贈大伴宿禰田主歌一首
マタ ニカダチ ニ ニ

大津皇子宮侍石川女郎贈大伴宿禰宿奈麿歌一首
ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ

長皇子與皇弟御歌一首
ナガ 日本紀 ニサルノ フルスメイロ上ニ ニ

柿本朝臣人麿從石見國別妻上來時歌二首 井短歌
ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ 前ノ

或本歌一首 井短歌
ニ

柿本朝臣人麿妻依羅娘子與人麻呂相別歌一首
ノツマ ヨサミノ イラツメ ニ ニ トメト 後ノ

挽歌 竹林樂 御文
ハム

後岡本宮御宇天皇代
ニ ニ

有間皇子自傷結松枝歌一首
アリマノ イタムテ ニ ニ ヲ 御ヲ

オホノイミキ キキ
長忌寸意吉麿見結松哀咽歌二首

山上臣憶良追和歌一首

文武五年
大寶元年辛丑幸紀伊國時見結松歌一首 作于室本云在

近江大津宮御宇天皇代

天皇聖躬不豫之時太后奉御歌一首

一書歌一首

天皇崩御太后御作歌一首

天皇崩時婦人作歌一首 未詳姓氏

オホモカリ
天皇大殯之時歌二首

太后御歌一首

石川夫人歌一首

シナノミサカキ シリソキフラクル
從山科御陵退散之時額田王作歌一首

天武天皇
明日香清御原宮御宇天皇代

カミアカリマス
十市皇女薨時高市皇子尊御作歌三首

天皇崩時太后御作歌一首

一書歌二首

天皇崩之後八年九月九日奉爲御齋會之夜夢裏習賜（ナラヒタマフ）（ツカヘマツル人ニ）御歌一首

藤原宮（持統天皇宮）御宇天皇代

大津皇子薨後大來（ラホクノ）（オホキノ）皇女從伊勢齋宮還（ノボリキタラシヨコミ）京之時御作歌二首

移葬（ウツス）大津皇子屍於葛城（ニ）二上山（フタカミヤマニ）之時大來（キホクノ）皇女哀傷御作歌二首

日並皇子尊殯宮（ヒナメシノ）（モカリ）（カリモガリ）之時柿本朝臣人麿作歌

一首　並短歌

或本歌一首

皇子尊舍人等慟傷（イタメルニ）作歌二十三首

柿本朝臣人麿（三一天卽御子ニ）泊瀨部皇女忍坂部皇子ニ獻歌一首　並短歌

明日香皇女木（コ）槨（カメノカリモガリ）殯宮之時柿本朝臣人麿作歌一首　並短歌

高市皇子尊城上（キノ）殯（宮殿）之時柿本朝臣人麻呂

作歌一首 并短歌
或本歌一首 書又本題
但馬皇女薨後穂積皇子冬日雪落遥望御
墓悲傷流涙御作歌一首并短歌
弓削皇子薨時置始東人作歌一首并短歌
柿本朝臣人麿妻死之後泣血哀慟作歌二
首并短歌
或本歌一首并短歌

吉備津采女死後柿本朝臣人麿作歌一首
并短歌
讃岐狭岑島視石中死人柿本朝臣人麿作
歌一首 並短歌
柿本朝臣人麿在石見國臨死之時自傷作
歌一首
柿本朝臣人麿死時妻依羅娘子作歌二首
丹比真人 名闕 擬柿本朝臣人麿之意

報歌（カヘシ）十首

或本歌一首

寧樂宮（元明天皇宮）

和銅四年歳次（ホシヅトテ）辛亥河邊宮人（カハノヘノミヤヒトヒメニノ）姫島松原見（ヲトメカ）嬢子之屍悲（ラ）藤原作歌二首（カナシミテ）

靈龜元年（第四十代天正之年）乙卯秋九月志貴親王薨時（ノミコ）歌（スル）一首（作小序）

或本歌二首（下三首並短歌）

和銅四年歳次辛亥河邊宮人姫島松原見嬢子之屍悲藤原作歌二首

靈龜元年乙卯秋九月志貴親王薨時歌一首

或本歌二首

文近四十二曹子建矣詩異季重信云一アヒトフヘシ依茲恋哥ヲ集ム又兄弟朋友ミヤビヲカワス哥モ有古今集ニ恋部ヲ立テ恋哥ハカリヲノセテ兄弟朋友ノ哥ハ雑部ニ入タリ支ヨリホノ集ニ此集ニナラヘルモアリ南宋書列傳六張敷載善特善儀畫詳綴之致與人別執手日念相関係實久不絶

相聞

難波高津宮（仁徳）御宇天皇代

磐姫皇后思天皇（モノ）御作歌四首

君之行（キミカユキ）氣（ケ）長成（ナガクナリヌ）奴山（ヤマ）尋（タヅ）都禰（ネ）迎（ムカヘカ）加將行（ユカム）待（マチ）爾可（ニカ）將待

此哥ハ君カ吾カ本ヨリ行テ又来迄（処）間ニ物思ノ積ルヲ云（命）息ノ間陳物思ニ成（御幸）

右一首歌山上憶良臣類聚歌林載焉

カクハカリコヒツヽアラスハタカヤノイハネシテ（専）死奈（ナマシ）

磐根四巻手（枕モ身ニソフ心繊）

（仁徳行幸ノ日本紀無之故以類一首）

（人墓所ニヲクヘシヲ中ニ棺ヲ納ル故ニ）

麻死物乎（マケル物ヲカモトモヨメリ）

（シマクノ詞古文記二首一カニハ二首六帖一首ヨリ異異記ニ見点ニマヨテ指点指示トヲ中ス品也相叶ノ秘蔵ノ（仲説ニ昔ハ枕ヲマクト云如クケウトキ名根ヲモナガレキ物ニシテントノ心ヲ申タルヤウニ存ク処右ヨリ異記ニ女人悪鬼（悪念）ニテアルヲ云（枕ニ食哦）ニテモノシニヒ、ナニアレスノ心ヘ通ヲ恋ルカヒノナクハ（物語ニアリクフレアリクトイヘルカコトアル三准スヘシ下ニ人丸ノ哥ニヲカモ山ノイハネシテ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

報歌（カヘシ）十首

或本歌一首

寧樂宮（元明天皇宮）

和銅四年歳次辛亥（ホシトシヅトノエ）河邊宮人（カハノヘノミヤヒト）姫島松原見（ヒメシマノマツバラヲトメ）嬢子之屍（ヲトメガ）悲嘆（カナシミテ）作歌二首

靈龜元年（第四十代天正之年）乙卯秋九月志貴親王薨（ノミコ）時（スル）歌一首（作小序下三首並短歌）

或本歌二首

文武四年庚子建午之冬（吳季重云）昏（ヨヒ）ニ（アヒトフ）依茲（コヽニヨリテ）恋哥ヲ集ム又兄弟朋友ノ哥ハ雜歌ニ入タリ（哥モ有古今集ニ恋部ヲ立テ恋哥ハカリヲノセテ兄弟朋友ノ哥ハ雜部ニ入タリ支那宋書曰列傳六張載善持音儀書詳綴之致與人別執手曰念相関綵響久不絶）

相聞（リモノ集ニ此集ニナラヘルモアリ）

難波高津宮（仁徳）御宇天皇代（ノ）大鷦鷯天皇（サヽキ）

磐姫皇后思天皇（モフ）御作歌四首

君之行（キミカユキ）氣長成（ケナガクナリヌ）奴山之（ヤマヅノ）（寺ノ間ニ處ノ名）

將待（マタム）（此哥ハ君カ吾カ本ヨリ行テ又来迄ノ間ニ物思ノ積ルヲ云心）

如此（カク）許（ハカリ）戀乍（コヒツヽ）不有者（アラズハ）高山之（タカヤマノ）磐根（イハネ）四巻手（シキテ）死奈（専ニ死ナン）麻（マ）（ケル我カモトモヨリ）

右一首歌山上憶良臣類聚歌林載焉（仁徳行幸ノ日本紀無之故以類一書）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

アリツヽモ（アリツヽモ）ヘテ（アリクテ）等ヘテ待心モアルヘシ古今恋四君コスハ子ヤヘモイラレヽ紫ワカニトユヒ結ハオクトモ

（加様ニ有上ニ又一ヶ所アリ）

在管裳君乎者將待打靡吾黒髪爾霜乃置萬

（モキミヲハマタム　ウチナビキワカクロカミニシモノキクマデ）

（無心ニテトヨムヿ今ノ俤代ヘシ）

（夜更待門ニ立出又ハ近クノ黒トヽシタメ）

代日

（我恋ハヒヌヨトノメリ）

（霞ハ秋モ立モノニテ此集末ニモヨメリ）

アキノタノホノタヘニ霧相朝霞何時邊乃方二我戀

（アキタアサカスミイツヘノカタニワガコヒヤラム）

（モノニツケテイヘル詞）

（イカヽセンニ君ヲミテワガコヒヤラム）

（無十二月）

將息

（トヾル心ヘタヽル心モノサヘキリテミセヌ心日本紀ニモキリノ字ヲキリテトヨメリ）

（圖ノヤウニキリテトヽ）

或本歌曰

（十ノ九丁十九十二ノ九ノワカクロカミニシモハフリ）

居明而君乎者將待奴婆珠乃吾黒髪爾霜者零騰文

（井ヲアカシテキミヲハマタヽヽ）

右一首古歌集中出

（笠金村集　人丸哥集　山上憶良類聚哥林　高橋虫丸集　古支紀　田辺福丸集　古哥集ノ類當集ニ引処ヽ）

古事記曰輕太子奸（カル）（ヲカス）（ヨバフ）（ノオホイラツコトニ）軽太郎女故其太子流（軽）（タヽシ）（ス）

於伊豫湯也此時衣通王不堪戀慕而遣往（ニ）（ヒカ）（ノ）（追ノ誤ヽ）

（其伊呂妹ハ日本紀）

時歌曰

（キミカユキケナカクナリヌヤマヅノユフマツヒトヲマタバコヨイマ）

君之行氣長久成奴山多豆乃迎乎將往待爾

（ハヽタレ）（ヽ）（ヽ）（ヽ

皇后（磐ノ姫ノ命ノ事ナリ紀ニ見エタリ）納八田皇女（ヤタノヒメミコヲ）將（セントスルニ）妃時（キサキノトキニ）皇后不聽（キコシメサヌ）
天皇歌以乞（ウタヒテコヒタマフ）於皇后（キサキニ）之（ノ）三十年秋九月乙（ノ二十三日ノ事ナリ）
卯朔乙丑皇后遊行（イデマシテ）紀伊國到熊野岬（ノ二ノ岬ノ事ナリ）取（ウカヽヒテ）
其處之御綱葉（ミツノカシハヲ）而還（カヘリマス）於是（ニ井カヘルノ事ナリ）天皇伺（ウカヽヒテ）皇后不（キサキノイマセヌヲ）
在而娶（メシテ）八田皇女（ヤタノヒメミコヲ）納於宮中（ニ）時皇后到難（イタリマシテ）
波濟聞（キコシメシ）天皇合（メシアハス）八田皇女（ヤタノヒメミコヲ）大恨之（ウラミタマフ）云々（日本紀ニ委シ）亦
曰遠飛鳥宮（トホツアスカノミヤ）御宇雄朝嬬雅子（ヲアサツマワカコノ）宿禰天皇（允恭紀ニ木梨輕皇子ノ誤）
二十三年春正月甲午朔庚子（キノエネノツチノエネ）木梨輕皇

子（ミコ）爲（ナス）太子（ヒツキノミコト）容姿佳麗（カホキラ〳〵シ）見者自感同母妹輕
太娘皇女（オホイラツメノヒメミコ）亦艶妙（カホヨシ）也（ト）云々遂竊通乃悒懷（タメイキナゲカヒ）少
息（ヤスム）廿四年夏六月御羹汁凝（ミアツモノシル）以作（ナス）氷（ト）天皇
異之（アヤシミ）卜（ウラヘシム）其所由（ユヘヨシ）卜者曰有内亂（ウチノミダレ）蓋親親相
姦乎（タハケムカ）云々則流（ナガス）輕（ノ）太娘皇女於伊豫（イヨニ）者今案二
代二時不（ズ）見此歌也
近江大津宮（天武紀）御宇天皇代
天皇賜鏡（カヾミヲ）王（ノ）女（ムスメ）御歌一首
天命開別天皇（アメノミコトヒラカスワケノ）（謚曰天智天皇）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

大嶋嶺　大和平群郡則ヌカタ姫ノスミ玉ヘル処ナリ其證日本紀ニ和名平群郡嶺田収加アリ多

コノトカクレ長流曰里下ノ詞ニ

玉一巻一人ニ逢フ心ハユノアタノ合タルニ比

古今集玉クシゲアハ君カ名立ヌヘシ夜フカク名立ヌヘシミシカモ此心ナリ　少大君カ山モハシノヨル契モタユヌヘシアクルワビシキ葛城ノ神此心ナリ

古文紀スセリ姫尊アハモヨー首ノ詞ニノ語勢ニ同シ

サヒハニヤスクアニミヒトニヨロコフ心ヲ安見児ト云名ニヨセテヨメリ

有カテヌナト云ハ有テユクヘシトニノ心カワレリ

イモカ　イヘヲ　ツギテ　ミマシヲヤ

妹之家毛繼而見麻思乎　山跡有大島嶺爾家

アラマシヲ　（一ニ云妹之當繼而毛見武爾）

母有猿尾　（一云妹之傳麻之乎）

鏡王女奉和御歌一首

（一ト目六ニ字無之以無為證）

姫王也

アキヤマノ　コノシタカクレユクミツノ　（飛鳥井ニ誤ル元暦本）

秋山之樹下隱逝水乃　（心中ノ思ニ比ス）　吾許曽益目　（久矢）

御念従者

大織冠御歌也

内大臣藤原卿娉鏡王女時鏡王女贈内大臣歌一首

（一ニ云ハ入弁ガ誦ミシ詞ト）

玉匣　（箱ノ枢ヲ開ケ閉ツルヲ以テ男女ノ交通ニ比ス）　覆乎安美　（此時天皇ノ寵ヲオトロヘル力依テ鏡足ヨハフトミヘタリ）　開而行者　（心中ノ思ヲ発言ニ比ス）　君名者雖有　（立ツ）　吾名之

（一ニ云ハ入弁ガ誦シモキ）　（又云ワカナクヲシモ）

惜毛　（名タツ事ヲ惜ムヲ男ノ心トイヘルニ対シ）

内大臣藤原卿報贈鏡王女歌一首

（一ニ云ハ助語ノミ）

玉匣　（枕詞）　将見　（子ス）　圓山乃　（大和高圓山ニ長久伸詞）　佐不寐者　（ハツ甲）　遂爾有勝　（アリカテマシニテハ助語ノカテンニモノラシ）

麻之目　（タユクヒトヤマノサナカツラ　タユル又物ニハ絶ユル心モアリ）

或本歌云玉匣山乃狭名葛佐不寐者遂爾有勝

（一ニ云玉匣山乃狭名葛）

或本歌云玉匣戸山乃

（不詳）

内大臣藤原卿娶采女安見児得皆悉自慶作歌一首

（メトリシテ）

吾者毛也　（毛助ヤ助ヤス）　安見児得有　（タリ又タリ三ナヒトノエ）　皆人乃得難爾　（ガテニ）　為云　（ストイフヤステア）

見児衣多利

（古昔ハ俗ニモ如此名付ルコアリトミヘタリ僧ニアルカ如シ）

久米禅師娉石川郎女時歌五首

（イツノ）

火前ノ三笠ノ ヒノ山ニワカ ヒカハ ウマビトサヒテ 弓吾引者宇真人佐備而不
（元明紀 三年 科野国 今案信濃国ニ垣科郡アリ若シ大宝ノ時ハ科野国ニテ名付タルヲ今ハ信濃ト書ニヤ野ヨリ名ヲ改メタル歟 アルヒハ信濃国ノ名ヲ立ントテ古ヘヨリ有ル科野ヲ名付タルニヤ 猶考フヘシ）（ヒノ山ニ 枕詞カ 酒ノヨキヲ ウマ酒トイフ国ノホメコトバニヤ 何怜国ニ 何ソ美ル詞カ）

徒国ノ名立ンニモヤルナト云ヘシ 宣化紀 檜紳 敦賀君 古事記 敦賀 皆ウマヒトヨメリ美ル詞 日本紀ニ徳ノ御哥ニ ウマヒトヨテトヨメルヘシ 又神功紀 左右紀 サヒサハ助字ニ 俗ニ何ヲ何メ何ブルトイフヘシ 上ヒタルモヤガテ冬ヘ下ビタルモヤガテ冬ヘ

古ハ甲斐信濃ヨリ弓ヲ作レルニヤ 続日本紀大宝二年ノ処信濃国献梓弓一千二十張 延喜式甲斐信濃両国ノ調ノ料雑弓白八十張 甲斐国梓弓八十張 信濃国梓弓白張 ○梓ヲ豪云木之王也詩小雅維桑与梓 アツサユミ ツルヲヲトリハケヒク ヒトソノチノコヽロヲ（変）レリカテヌカモ 梓弓都良絃取波氣引人者後心乎知人曽引
（東ヨリ調奉ル弓ヲ物ヲ箱ニ入ル ヨニヲワセテ上ル ヘシ 退部 和名抄 阿豆万豆 式八祈年祭祝詞 荷前者皇太御神 熊太前ニ カテヌハアヌ 不堪敢ヘ 引テ成共 モテヒカヨコヽロニ）（知引）（ツルハケル 弦ハケル ヘシ 日本紀 天徳部トヨム 例作ハ弦ヲカケルトヨム）

梓弓引者隨意依目友後心乎知勝奴鴨 禅師ノ女
（ヒノ山ニ 枕詞カ 酒ノヨキヲ ウマ酒トイフ国ノホメコトバニヤ 何怜国ニ 何ソ美ル詞カ）

徒国ノ名立ンニモヤルナト云ヘシ 宣化紀 檜紳 敦賀君 古事記 敦賀 皆ウマヒトヨメリ美ル詞 日本紀ニ徳ノ御哥ニ ウマヒトヨテトヨメルヘシ 又神功紀 左右紀 サヒサハ助字ニ 俗ニ何ヲ何メ何ブルトイフヘシ 上ビタルモヤガテ冬ヘ下ビタルモヤガテ冬ヘ

古ハ甲斐信濃ヨリ弓ヲ作レルニヤ 続日本紀大宝二年ノ処信濃国献梓弓一千二十張 延喜式甲斐信濃両国ノ調ノ料雑弓白八十張 甲斐国梓弓八十張 信濃国梓弓白張 ○梓ヲ豪云木之王也詩小雅維桑与梓 アツサユミ ツルヲヲトリハケヒク ヒトソノチノコヽロヲ（変）レリカテヌカモ 梓弓都良絃取波氣引人者後心乎知人曽引
（東ヨリ調奉ル弓ヲ物ヲ箱ニ入ル ヨニヲワセテ上ル ヘシ 退部 和名抄 阿豆万豆 式八祈年祭祝詞 荷前者皇太御神 熊太前ニ カテヌハアヌ 不堪敢ヘ 引テ成共 モテヒカヨコヽロニ）（知引）（ツルハケル 弦ハケル ヘシ 日本紀 天徳部トヨム 例作ハ弦ヲカケルトヨム）

禅師ノ ヒノ ザキノハヨ竹葉ノ ニノ又 引テ成共 東人之荷向遊乃荷之結爾毛妹情爾乗爾家
（モトハミタマノユトヨシ奥ヶ歌ニモ 国頼 日本紀 緒手又古人ユツラノ傍字ニ結トカキテ書置ルヲ本行ニ入乎 心ニルトヨムヘシ長流延喜式ニヨルニハアラス イカタメ心ニカ ノリニケ 心ニルトヨムヘシ長流延喜式ニヨルニハアラス イカタメ心ニカ）

留香問 禅師
（宦本傍註ニ安ト名トアリ）

大伴宿禰娉巨勢郎女時歌一首
（一切カウラフヘシ ホメタル詞 タヽカツラフニ ナラヌキニ ハチハヤフル カミソツクト イフナラメ）

玉葛實不成樹爾波千磐破神曽著常云不成樹別爾
（不嫁心 イマタ実ナラヌ心ニ 師ニ実ノナラヌ物トミヘメリ 又ミヨソヘヨム）

巨勢郎女報贈歌一首
（上ラム又ヘメ古ヲ写ノ体ヘ 帰近江朝大納言巨勢人卿之女也 宦本 アウトハアラン也 メトヨミテハテニハ違ヘリ エニコフトイヒヅハヤラノ処メトトマリタシ）

玉萬花耳開而不成有者誰戀爾有目吾孤悲
（タヽカツラハナノミサキテ ナラズアルハ タカユヒニ アラメワカコヒ）

念乎

明日香清御原宮御宇天皇代 天武 天渟名原瀛
（アメフヌナ ハラヤキノ 亭）

千— 燭明ヒ
（此国ノ ウタニ多 女ヲカウツニタトフ 花ミ咲テ宴ナフ又知リ識ヌハ多 上恋ニカコツル我 タヒラヌ我ハ老サケハ宴ノナル如クイ ニノメヨリ真受ニ恋オモフ物ヨト 我ハ宴アリヌヲ ハ宴ナレト）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

三　タカカルレナノノ（ホ元訓ユミワカ）ヒカハ（ユミトモ水ホ本）イハムカモ
水鷄苅信濃乃真弓吾引者（女三代）字真人佐（オホヘテ）備而不
（ナ欲）（水戸）トモ
言常將言可聞　禪師　（惣メコモトモ云カヤトモ云ハ草ノ惣名）
（ミクサカルレナノノミ）（ユミヒカス）レテレヒサ（弦ノ誤）ルワサヲ（三字難心得）
三鷄苅信濃乃真弓不引爲而強作留行事乎
（シルトイハナクニ）（ユミ）（ツル）（ハグ欲）（ハグルトヨム弦ハグル又ハ日本紀ノ例作ハ弦ヲカクルナリ）（ハグ心）
知跡言莫君二　郎女
（アツサユミヒカ）ハ（心仕ミ）（ヨラメ隨）トモノチノコロヲ（変）レリカテヌカモ
梓弓引者隨意依目友後心乎知勝奴鴨　禪師女郎
（アツサユミツヅ）ラフヲトリハゲヒク（ヒトソノチノコロヲレル）ヒトソヒク
梓弓都良絃取波氣引人者後心乎知人曾引
（弦）（知引）
禪師
（モトハタマノヲストヨシ奥義ナリ三ノ国頼（ミタマクニ）日本紀）
（緒手又古人ノユラノ傍字ニ絃トモヨメリ書置ルヲ本行ニ入乎）
（アツマドノ）（ザキノハヨ竹葉）ノニノヲ（引テ成共）ニモテモカコトロニ
東人之荷向遊乃荷之結爾毛妹情爾乘爾家
（ニタルトモ云ヘ長流延喜式ニヨレハ母ニスイカタメメルル心ニ同心スルカ）
ノリニケ

（花ニ咲テ實ナヌ又知リ識ヌ人ノ上ニ恋ニカクニ我ハタダニス我ハ花ヤ實ノナル如クイニシメヨリ真金實ニ恋オモフ物ヲト人我ハ實アリソナト實ナレト）

千一　燭明ト

此国ノ内ニ多女ヲカクニシメトフ

（落注同歌ノ向ヲステテキクヘシ）

（東ヨリ調奉ル安物ヲ箱ニ入ル与ニヨワセテ上ル心）

（退部和名阿止倍豆加比）

（カテヌハアヌヘ不堪不敢）

式ハ祈年祭祝詞荷前者皇太御神能太前ニ

（玉鏡箱ヲ放ニ比ス）

（或抄ニ信濃国御射山ニ神ヲ祭時ブカケテ穂座作ル水ハ薄ノ名ヘ是ニヨリテ）

（玉葉金制盛ル屍花ヲホヤメクリ一ムニハ二足アル秋ノ御射山）

留香問　禪師
（ルカモ）

大伴宿禰娉巨勢郎女時歌一首
（宣本傍註ニ妾ノ名トアリ）（セノイラツメヲ）
（一切カツラニ云ホメタル詞タヘマカツラニ）
玉葛實不成樹爾波千磐破神曾著常云不成
（不嫁心）（キニハチハヤフルカミソツクトイフナラヌ）
樹別爾
（コトニ）（上ラニ丸ヘメニ右ニ同ノ体）

巨勢郎女報贈歌一首　（ニ）（帰近江朝大納言巨勢人卿之女也宣）
（アフトハアフ也メトヨミテハテニハ違ヘエニコフトイヒヘハヤラノ処メトトマリタタシ）
玉葛花耳開而不成有者誰戀爾有目吾孤悲
（タカユヒニアラメワカコヒ）（ナラズアルハ）（ワハ）
念乎

明日香清御原宮御宇天皇代　天渟（天武）名原瀛（亨）真人尊
（アメフヌナハラキヨミ）

此哥恋ニアラズ

オカミ　日本紀　靈ノ一　長屋王曰ク汝ラ
ムラ神ヘ延喜式神名帳ニ河内和泉等ヲハジメ諸国ニオホク意加美ノ神社アリ

眞人天皇

天皇賜藤原夫人御歌一首

吾里爾大雪落有大原乃古爾之郷爾落卷者

後

夫人名大原大刀自ト云傳フ又経歴ニ王了延モ大原ナレハソヘテヨミ玉ヘリ後ニ師考新田部皇子ノ母五百重娘ヘ氷上娘ナリ日本紀ヲ考ヘ

藤原夫人奉和歌一首

吾岡之於可美爾言而令落雪之摧之彼所爾

塵家武

藤原宮御宇天皇代　天皇諡曰持統天皇

終ニ人丸妻依羅娘子哥ヲ以文武天皇ノ御ナカルヲ後人如此誤ニ注シタリ

日本ニ始テ行ヒ玉ヘリ

大津皇子竊下於伊勢神宮上來時大伯皇女御作歌

天武娘

吾勢枯乎倭邊遣登佐夜深而雞鳴露爾吾立所霑之

哥ノ中ニ哀傷ノ心多シヒカニイヤヘトリ玉フヘド大津皇子御謀反ノ下心アリトミユ

二人行杼去過難寸秋山乎如何君之獨越武

大津皇子贈石川郎女御歌一首

玉葉恋ニ統古今ニ

日木乃山之四付二妹待跡吾立所沾山之四附二

大津皇子父伯皇女ノ弟ナレバミナハセトヨマセ玉ヘリ原氏系図ニテ弟十五王男ヲ忍トスルコトニテハ兄弟ヲ云

此哥ハイマダ天武御治世内ノ九ヘ皇ノ諒闇中ニモヤカヽル艶ハアルマジ

石川郎女奉和歌一首
ワヲ ニツト キミカ マレケム アシヒキノ ヤマノ シヅク ニ
吾乎待跡君之沾計武足日木能山之四附二
ナラマシ モノヲ
成益物乎

大津皇子竊婚石川女郎時津守連通占露
ニ タハスル ノ トキ
其事
ラ
皇子ノ御作歌一首
キホフチノ ツモリノ ウラ ニ ツゲム トハ ニサシ ニ シリテ ワカ
大船之津守之占尓将告登波益為尓知而我
フタリ ヲ シ
二人宿之
俗ニ云ヘヌクチナル 御事

日並皇子尊贈石川女郎御歌一首 女郎字曰大名也 児ト書
ヒナメシ ミコノ ミコト ニ タマハル イラツメ ノ ミウタ
大名児彼方野邊遍苅草乃束間毛吾忘目八
オホナ コ ヲチカタノ ヘ ニ カルカヤノ ツカノアヒダ モワレ ワスレメヤ
草原 神代

幸于吉野宮時弓削皇子贈與額田王歌一首
天武

イニシヘニ コフル トリカモユ ツルハノ ミ井ノ ヨリナキワタリ
古爾戀流鳥鴨弓絃葉乃三井能上從鳴渡遊
(イニシヘノ) (鄂ろ)

又
天武

額田王奉和歌一首
イニシヘニ コフラ ム トリハ ホトヽ キス ケタヤナキ シワカコフルゴ
古爾戀良武鳥者霍公鳥蓋哉鳴之吾戀流其
ト
騰

外草ノ序

是モ天武ノ恩奉ル哥

大名児ヨヒカケタル詞心定家マデ有クラムモ春クマニルト云ム文字ニ同シコヽノ名体ニテ四字

過八洋守連続日本紀和銅七年従五位上養老五年ニハオホヨリテ恩賜アルヲノセタリ

足一 歟明上

女苗維玉篇ニ女ヒカゲ女苗維神代紀師說兒糸ノ

從吉野折取蘿生松柯遺時額田王奉入歌一首

六帖逢支ライハクノ日ト松ノ木ノ苔ノ乱ニテ物ラコソ思ヘ之轉歌集松ニテチヨノ巢ニモルヘク

三吉野乃玉松之枝者波思吉香閇君之御言

（愛之字ノ誤カ）

乎持而加歟波久

但馬皇女在高市皇子宮時思穗積皇子御歌一首

秋田之穗向乃所縁異所縁君爾因奈名事痛

支痛ハ言痛氏女ヨリコトイタミトヨムラコチタミトヨムカ又ウワロシキ支ライヘハ言痛心アカル歟ヤ師云不ニヨリテ心ニテハ此レケニ重言ニ但古哥ノナラヒ如此乎

穗向ニ心アリヨスルハヨレトヨムヘキヤヨスルトイハ令緣ト可云乎

遣

三之日左仕也但馬皇女徳積皇子密通スル乎仲日遣宮ナトヨリノ勅使ニ行チ

川ツルハ男ヨリ女ニ通フニハ女ヨリ男ニ通フニハ女ヨリ男ニ通フヲ古今集思ヘモヒトメクミノ高ケレハトミナカラヨノ憂フ嘆ク歟子ナルヘシ思フ夏ノ川ニヌルヲ

勅穗積皇子遣近江志賀山寺時但馬皇女

遣左仕

御作歌一首

遺居而戀管不有者追及武道之阿回爾標結

（コヒツヽアラレスハ）

吾勢

但馬皇女在高市皇子宮時竊接穗積皇子

御作歌一首

事既形而後御作歌一首

人事乎繁美許知痛美已母世爾未渡朝川渡

（加）（田セ）（此句ハカナキコヨリ人ニ云サカルヽヲ云ヘキヲイマタワタラヌアサカハワタル）

天武天皇ノ子舍人皇子御歌一首

女ニスラクヤ　カタコヒ　セム　トナゲキトモシケリ

大夫哉片戀將爲跡嘆友（男ヲ大丈夫ト書ルハ神代紀ノ例ナリ）

丹生王

才七余杼同不逝（才ハ助字ニテ意ナシ）

同七不行（才十二阿余杼能不通乎）

敷管大夫之戀亂許曾吾髮結乃漬而奴禮（紀ニ三管ノ下ニ乃ノ字アリ）

禮

舍人娘子奉和歌一首

久堅乃皇子思紀皇女御歌四首

弓削皇子

芳野河逝瀨之早見須臾毛不通事無有巨勢（長流云逢ヿ有不來ノ頌ノ辭）

濃香毛

萩ノチリ過ルヤウニ死ナヤトシタヒテヲコレフ六帖ノ詩

猶豫不定オナジ意　垂仁紀

暮ニナリタスハ

持統紀六年冬十月士成朝臣忍壯山田史御方務廣肆前爲沙門學問新羅ニ

吾妹兒爾戀乍不有者秋芽之咲而散去流花（和名ニ出）

暮去者塩滿來奈武住吉乃淺香乃浦爾玉藻（塩ノミチクルカヲ云ヒ乍ノ下ニモ）

苅手名

大船之泊流登麻里能絶多日二物念痩奴人（ユキカタナキ）

能兒故爾

三方沙彌娶園臣生羽之女（ミカタ）

作歌三首

未經幾時卧病

大夫哉片戀將爲跡嘆友鬼乃益卜雄尚戀二
家里
舍人娘子奉和歌一首
歎管大夫之戀亂許曽吾髮結乃漬而奴禮計
禮
弓削皇子思紀皇女御歌四首
芳野河逝瀨之早見須臾毛不通事無有巨勢
濃香毛

吾妹兒爾戀乍不有者秋芽之咲而散去流花
爾有猿尾
暮去者盖滿來奈武往吉乃淺香乃浦爾玉藻
苅手名
大船之泊流登麻里能絶多日二物念瘦奴人
能兒故爾
三方沙彌娶園臣生羽之女未經幾時卧病
作歌三首

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

タケバヌレ　ナカキイモカ　カミコノ髪ヲ場ノタメニト云意黒馬タキ髪後ノ土紀ニ此等ノ書ニ
トル云ヒ

梼　神代紀曰一書云ヒ長キトイハ杭ノ心ノ今ノ梼皮ノ縄ナトノ数ヲ
ヨルニ梼縄ハ引ナハ長路ニオトロヘテ髪ノタケハイカリセト云ヒ是ハ古今ノ意ニキヤヒナノ長路ニオトロヘテ髪ノタケハイカリセト云ヒ是ハ
物ヲタクルト云船タク馬タクノ類ニテ今ハ遠ヘリ処ニヨリ
云得ヘクヘシ
イヘラ以テ引ヲ用ラトリテ与ヲ字訓セヨ

根者長寸妹之髪比来不見

イモカ　カミコノ　ミヌ

タケバ　ヌレ　ナカキ

ヒトニナハ　イヒツ　ケト　イヘト　キミカ　ミ乙　カミ、タレ

根者長寸妹之髪比来不見

長流曰哥ノ体女ノ返哥ヤウ

三方沙彌

娘子　園臣生羽女ヲ

有等母　ソマニヨクハ君ヲノケテ誰ニ見セ為ニカキケンヤトハ
タチハテノ　カケフハミチノ　ヤ　チヽタニ　モノヲ　ゾ　オモフイモニ　アハズシテ

計登雖言君之見師髪亂

タクヘトモ　キミカ　ミシ　カミ、タレ

橘之陰履路乃八衢爾物乎曽念妹爾不相而

石

三方沙彌

石川女郎贈大伴宿禰田主歌一首

東俗語キメテ云後頼カオソイトカヌ

西都賦　ワレハ　カサス　ヤ　ドノ　カサヌ　ヤ　神ナ

遊士跡吾者闇流乎奎戸不借吾乎還利於曽

大八衢　延喜式ニ多ヽタ祭

弟十二山城ノ人タノモリニ心鈍ノ

能風流士

大伴田主字曰仲郎容姿佳艶風流秀絶見

ナカチコト私　ウルハシクメリ　アリサマ　スグレタリ

人聞者靡不歎息也時有石川女郎自成雙

ヲトメトイヘルモノヽ

栖之感恒悲獨守之難意欲寄書未逢良信

オモヒヲ　キヲ　ニヨキタヨルニ

爰作方便而似賤嫗已提鍋子而到寢側哽

ヨキ　オウナ　ナヘ　イタル　オホ

音跼足叩戸諮曰東隣貧女將取火來矣於

ヌキアレニソ　ハヤ

是仲郎暗裏非識冒隱之形慮外不堪拘接

カクセル

之計任念取火就跡歸去也明後女郎既恥

ヒメ　シメ　リヌ　テ

悼之詩遙妄ニ

髮ヲ場ハヲタヽミ上ム宮馬タヨ船タキテナトヨメリ馬ニノリ舟ニルハアカハヽオナニラリワケノカミノミヒカニワ野ヲ髮ニタクヽムトヾく

大八衢 延喜式第三十ヽタ祭

撓入 楯ヲ神ニ撓入ル

多氣婆奴禮多香根者長寸妹之髮比來不見
ニ（ミタケカク）（マトヒ心メヲ〜スベクナトヽ云ヽ）
爾搔入津良武香三方沙彌
ヒトニナハ（イニハ）（ナカレト）（タケト）（イヘトキミカ）（カミノタレ）
者今波長跡多計登難言君之見師髮亂
（タキテアゲヨトヽ云ヽ）
有等母
（ソマニヨクハ君ヲノケテ誰ニ見セ為ニカキアゲヨトヽ云ヽ）
娘子（醫師生例女手）
橘之陰履路乃八衢爾物乎曾念妹爾不相而
（西都賦ノ注ニ）
遊士跡吾者聞流乎屋戸不借吾乎還利於曾
（東俗語ニメナキヲヽ云後頼ハカハオソノトヽ云ヽ）
三方沙彌

石川女郎贈大伴宿禰田主歌一首
（ワレシカヘセリ）
大伴田主字曰仲郎容姿佳艶風流秀絶見
（ナカチコト私）（ウルハシク）（アリサマ）（スグレタリ）
人聞者靡不歎息也時有石川女郎自成雙
（トナメトヽモノミ）（悼亡詩遙妄ヽ）
栖之感恒悲獨守之難意欲寄書未逢良信
（オモヒヲ）（キヲ）（ニヨキタヨリ）
爰作方便而似賤嫗已提鍋子而到寢側哽
（メヲカヘリテ）（オウナ）（カナヘ）（イタル）（ネヽ）
音跼足叩戸諮曰東隣貧女將取火來矣於
（ハヾ）（スキアレニソ）
是仲郎暗裏非識冒隱之形慮外不堪拘接
（オモヒノ）（ニラカクリセ）
之計任念取火就跡歸去也明後女郎既恥

能風流士
大伴田主字曰仲郎容姿佳艶風流秀絶見
人聞者靡不歎息也時有石川女郎自成雙
栖之感恒悲獨守之難意欲寄書未逢良信
爰作方便而似賤嫗已提鍋子而到寢側哽
音跼足叩戸諮曰東隣貧女將取火來矣於
是仲郎暗裏非識冒隱之形慮外不堪拘接
之計任念取火就跡歸去也明後女郎既恥

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

多氣婆奴禮多香根者長寸妹之髮比來不見
爾掻入津良武香三方沙彌
人皆者今波長跡多計登雖言君之見師髮亂
有等母
楯之陰履路乃八衢爾物乎曽念妹爾不相而
三方沙彌
石川女郎贈大伴宿禰田主歌一首
遊士跡吾者聞流乎屋戸不借吾乎還利於曽

能風流士
大伴田主字曰仲郎容姿佳艶風流秀絶見
人聞者靡不歎息也時有石川女郎自成雙
栖之感恒悲獨守之難意欲寄書未逢良信
爰作方便而似賤嫗已提鍋子而到寢側哽
音跼足叩戸諮曰東隣貧女將取火來矣於
是仲郎暗裏非識冒隱之形慮外不堪拘接
之計任念取火就跡歸去也明後女郎既恥

才十二恵トイヘハ
ニメヤスレ

才十二芳ノ知文若未
長又吉支代如
都芳ノ是ホヲ證
トソアレワカト可讀

自媒之可愧復恨心契之弗果因作斯歌以
贈諺戯焉

大伴宿禰田主報贈歌一首

遊士爾吾者有家里屋戸不借令還吾曽風流
士者有

同石川女郎更贈大伴田主中郎歌一首

吾聞之耳爾好似葦若未乃足痛吾勢勤多扶
倍思

新勅恵アレカ
神ミヨスル白波ノ
ウレナ君ハ我恋ラ忘
若紫巻アシワカノウ
ラニミルメカタク后
コハ恵ナカラ帚ニ返
カヘ

浜御庭之御歌ナ
ルヘシ

イニシヘハ昔ニ通フ
古ヘニ非スアリニシ
コシ今ナルヘシ

神名帳云大和国
宇陀郡丹生神社
吉野川之末乎
弖弟セヨムイ和
名備中下道郡
必アレ尼コハワ
モヨロルベシ

右依中郎足疾贈此歌問訊也

大津皇子宮侍石川女郎贈大伴宿禰宿奈
麿歌一首

女郎字曰山田郎女也宿奈麿大納言兼大将軍卿之第三子也官
侍女シコレモトノ歌ニ

古之嫗爾為而也如此許恋爾将沉如手童兒
(キヲフリメル女ト云心卑下ノ詞)

一云戀乎大爾忍金手武多和郎波乃如

長皇子與皇弟御歌一首

乞通來禰

丹生乃河瀬者不渡而由久遊久登癒痛吾弟
(遊ノ誤歟)

六帖ニタハハ母メノトメトノチヲハナレヌヨヨ云

白玉ノ第十七ニワカセニテヨク

日本紀イデ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

柿本朝臣人麿從石見國別妻上來時歌二
首并短歌

（人丸妻ノ事後ニ人ノ是ハ前妻ヘカヨヒトリ高市郡軽野ニスヘラセル人丸妻ノ事トテノセタルハ此人ノ後此巻下ニ此妻ニオクレテカナシメル哥ヨリ考四ツ）

石見乃海角乃浦回乎浦無等（知名集云那賀郡勘農ノ時ノ作ト）
人社見良目滷
縦畫屋師滷者（一云無鞆）
和多豆乃荒礒乃上爾香青生玉藻息津藻朝
羽振風社依米夕羽振流浪社來縁浪之共彼
縁此依玉藻成依宿之妹乎（一云渡之手本露）

（ニキタツ伊与国温湯郡ヘ長ク云ヘル名ニ者ハル）

（ツユジモト決ル時ハ露一物和名ニ礼義宗）

（八九月ニ白露寒露トイヘハ露ノ磐ノ凝タル露霜トイフトミヘタリ考七露霜冒考ヲ看）

（右ノ後拾遺ニ石見カタ高ノ角山ニ雲ハシテモトルヘキ事ヲ出ル時殿思ヒヤルヘシカヘリミスレハ隠レテモサコソ心ノコリシケン哥ヲ集ニ入レラメ又於遠津ノ山トイヘルハ此集ニ異本ト注ノ右ケルニヤ毎ニアクル所ノ名サヘラメノ長流云神ノ社ハカクヨリ考ヘシ）

（難波ニ行キテ是ヨリ道ヲ京ヘ都ヘノホル道路ヘ）

霜乃置而之来者此道乃八十隈毎萬段顧爲
騰彌遠爾里者放奴益高爾山毛越來奴遠妻等
之念之柰要而志怒布良武妹之門將見靡此
山（海ヲコメテノトカナルヨミヤウ）

（夏野ニ思ヒシヲセテ妻ヲフユル哥ヲ入レル人ノ胸中ニ山ノ後拾遺ノ事ヲ見ル物ニヨセテ妻ヲフユル哥ヲ入レル人ノ胸中ニ山ノ事ヲ考ヘシ）

反歌

之木際從我振袖乎妹見都
小竹之葉者三山毛清爾亂友吾者妹思別來

柿本朝臣人麿從石見國別妻上來時歌二
首并短歌

石見乃海角乃浦廻乎浦無等人社見良目滷
縦畫屋師滷者一云無鞆磯者鯨魚取海邊乎指而
和多豆乃荒礒乃上爾香青生玉藻息津藻朝
羽振風社依来夕羽振流浪社来縁浪之共彼
縁此依玉藻成依宿之妹乎一云渡之手本露
霜乃置而之八十隈毎萬段顧為
騰彌遠爾里者放奴益高爾山毛越来奴夏草
之念之萎要而志怒布良武妹之門将見靡此
山

反歌

石見乃也高角山之木際従我振袖乎妹見都
良武香

小竹之葉者三山毛清爾乱友吾者妹思別来

禮婆

或本反歌　長流曰或本ニ上ノ二首ナクノ此哥ハカリ有ト也

石見爾有高角山乃木間從文吾袂振乎妹見

監鴨

角鄣經石見之海乃言佐敝又辛乃埼有伊久里爾曽深海松生流荒磯爾曽玉藻者生流玉藻成靡寐之兒乎深海松乃深目手思騰左宿夜者幾毛不有延都多乃別之来者肝向心乎

痛念乍顧爲騰大舟之渡乃山之黄葉乃散之亂爾妹袖清爾毛不見嬬隠有屋上乃山雲間渡相月乃雖惜隠比來者天傳入日刺奴禮大夫跡念有吾毛敷妙乃衣袖者通而沾奴

反歌二首

青駒之足掻乎速雲居曽妹之當乎過而來計類

一云當者隠來計留

秋山爾落黄葉須臾者勿散亂曾妹之當將見
アキヤマニ　マツルモミヂバ　シバラクハ　ナチリ　ミダレソ　イモカ　アタリ　ミム
一云知里　勿亂曾

或本歌一首并短歌
イハミノ　ウミツ（角浦ヲ略ノ云）　ウラヲ　ナミ　タラシ（重詞）ニト　ヒトコソミ　ラメ
石見之海津乃浦乎無跡人社見良目
カタナシト　ヒトコソミ　ラメ　ヨシエヤシ
潟無跡人社見良目吉咲八師浦者雖無縱恵
カタハ　ナクトモイサナ　トリウナビ　ヲ　サシテ　ニキタツ（愛ノ字ヲ心）
夜思滷者雖無勇魚取海邊乎指而柔田津乃
アケクレハ　ナミコ　モ　アケクレハ　ナミコ
荒礒之上爾蚊青生玉藻息都藻明來者浪已
アライソノ　ウヘニ（檜首ノ句ヲ書ヨ）　カ　アヲナルタマモ　ウミキツモ　アケクレハ　ナミコ
曾來依夕去者風已曾來依浪之共彼依此依
ヨレナミノ　ムタカ　ヨリカクヨリ　ソキヨレユフサレハ　カゼコソキ

玉藻成靡吾宿之敷妙之妹之手本乎露霜乃
タマモ　ナスナビキワカ子　シ　シキタヘノ　イモカ　タモトヲ　ツユ　シモノ
置而之來者此道之八十隈毎萬段顧雖爲彌
オキテシ（助）クレハ　コノミチノ　ヤソクマ　ゴトニ　マタカヘリミスレト　イヤ
遠爾里放來奴益高爾山毛越來奴早敷屋師
トホニ　サトサカリキヌ　イヤタカニ　ヤマモ　コエキヌハシキヤ（ヨト通）シ
吾嬬乃兒我夏草乃思萎而將嘆角里將見
ワカツマノ　コカ　ナツクサノ　オモヒシナエテ　ナケクラムツノ（愛ノ字ヲ）サトミム
靡此山
ナビケコノヤマ

反歌
イハミノ（石見ノ）ウミ　タノヤマノ（多ノ）コノマヨリ　ワレヲカ（三日本紀）フルソテヲ　イモミツラム
石見之海打歌山乃木際從吾振袖乎妹將見
香
カ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

右歌體雖同句句相替因此重載

柿本朝臣人麿妻依羅娘子與人麿相別歌一首

（河内ノ名処ヲ名ニオフ）（後妻ニ）（日本伝ニ在可考）

文武之末元明之始間人先帰二石見国一

オモフナトキミハヘトモアフヨシモイツラトキカモムモイリトノ有乎

挽歌

當集三六八カナレヒ高ヲ云末ノ集ニ至テ哀傷ト合

後崗本宮御宇天皇代　天豊財重日足姫天皇

（細昏皇極）（御脈ヲ）

有間皇子自傷結二松枝一歌二首

（斉明紀三年十一月一日ニ皇子此ハマノ過ル我実ニ謀反サキコヲ申アルヲ聞召ハテタヌスニメヒ此松枝ヲトクベシトテムスビラテリ盤代ノ神アリテナカヘルナルヘシ）

イハテシロ

磐白乃濱松之枝乎引結真幸有者亦還見武

（六ノ巻廿六オ）

家有者笥尓盛飯乎草枕旅尓之有者椎之葉尓

（礼記云盛食器ノ）

盛

長忌寸意吉麿見結松哀咽歌二首

（マサキクアラハトヽ云詞ニアタリテナヽ云ヘルカ如シテ三タヽマヘルカトヽメリ）

磐代乃岸之松枝將結人者反而復將見鴨

（此歌ニテ神ニ誓ヒニ非ス文ニアラサルヲ神ニアラソヒ心ニ可和）

未詳

山上臣憶良追和歌一首

（ナスヘキ文ナル）

磐代乃野中尓立有結松情毛不解古所念

（ムスヒテヲキシ）（イニシヘオモホユ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

アリカヨフニ歟心ヲ用ルハ不可

鳥翔成有我欲比管見良目杼母人社不知松
ハ　ニルラ（如心ム）（アリ〳〵テ）　（有馬皇子ハ孝徳天皇ノ皇子ニマシマス）

者知良武

自是以下号ケテ哥ラス

右件歌等雖不挽柩之時所作唯擬歌意

故以載于挽歌類焉

（一柩）

大寶元年辛丑幸于紀伊國時見結松哀咽歌一首

（寶）

後將見跡結之松有磐代乃子松之字禮乎又

ノチ　ミム　ト　キミカ　ムスヘルイハシロノコマツカヲレヲタ　（作宇脈矣宜本如件）　（楢ノホトリ云）

將見香聞

ミムカモ

或本朝臣人麿歌集中出也　宜歟昭古今抄

近江大津宮御宇天皇代

（謚曰天智天皇）

天命開別天皇

天智紀云十年

今此瑞アリ然言ノ御廟ハウサス天トヒトシ

耳梨青旗ノカツラキ山　才十三首ハタノ忍坂山

廟陵記可引又師説哥林良材ニアレ延喜式十一縦横曰ナシト

此集才六ノ世及栗ニモヨレハヨレメトヒトモテヨリコレメトヒト心ノ善悪ノヨシニアルスラス

天皇崩之時太后奉御歌一首

（皇后倭姫王大兄皇子女也宜）

アマノハラ　フリサケミレハ　ノ　オホキミ

天原振放見者大王乃御壽者長久天足有

（天子ノコト）　ナカク　トコシヘニ　ナカラヘタリ

一書曰近江天皇聖體不豫御病急時太后奉獻御歌一首

（是ハ下ツキタル詞ヘ）

（紫冠山科鏡山ニ葬ル由日本紀并下ノ二十四葉ノ長哥ニミユ）

天皇聖躬不豫之時太后奉御歌一首

ミヤマニシキヲ

（和書ノ集ノ多キ）　コヽニハタヽノ　シヘヲ

青旗乃木旗能上乎賀欲布跡羽目爾者雖視

（アヲハタノ）　（御霊魂ノ小旗山ノ上ヲ通ヒ玉ハンコヲ）　カヨフ

（天智天皇登仙ノ後日本書異説ニ見ヘタリト雖モ今考ルニ無之）

タヽニアハヌカモ

直爾不相香裳

アハニ（私）

天皇崩御之時倭太后御作歌一首

（雄略紀ニハ一ハ賢ノカサリノコシニ又カル柏詞前ニ太后ト云ニ同古人ノ大兄ノ皇子卿女ヒト）　ヤムトキニ　ヤマトノカミ

人者縦念息登母玉鴨影爾所見乍不所忘鴨

（古説）　ウスラエヌカモ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

天皇崩時婦人作歌一首 姓氏未詳

空蟬師神爾不勝者離居而朝嘆君放居而吾戀君 天皇

玉有者手爾巻持而衣有者脫時毛無吾戀君曽伎賤乃夜夢所見鶴

天皇大殯之時歌二首 或本歌曰

如是有乃豫知勢婆大御船泊之登萬里人標結麻思乎 額田王 或本歌曰

八隅知之吾期大王乃大御船待可將戀四賀 又本歌曰

乃辛嵴 舍人吉年 宮

大后御歌一首

鯨魚取淡海乃海乎奥放而榜來船邊附而榜來船邊附而榜

来舩奥津加伊痛勿波禰曽邊津加伊痛莫波禰曽若草乃嬬之念鳥立

石川夫人歌一首

神樂浪乃大山守者爲誰可山爾標結君毛不有國

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

日本紀廿八天武
元年四月条
延喜式廿一諸寮式
期トヤト訓音
ハタハハタ分ノキ
ハ縄手ナドノ心
オハ波多ヲ立ト
語音似タリ
オミヌロキノ神ノミ
コトノレキマセル国ハ
タテ
呼ヨフニハオノ色ヲ
出シラメクト云ヲ
モアレハナルヘシ
懐風藻葛野王
傳
ミモロミムル音通
則三輪山ノ神坎ヘ

大和三輪山

八雲御抄ニ神岳カミ
ヲカトヨマセテモ有哽
アレト此集ホニ神ノ
モヨメリ神岳ハ飛
鳥ニアリ飛鳥同京
ニ宮ツクリテマレマセハ
ミヤリモニテヨミテヘ
ルヘシ三輪ハルカナレ
ハミヤルヘカラス

從山科御陵退散之時額田姫王作歌一首

ヤスミシ 退去ノ カ 八隅知之 和期大王之 カミノミヤミニ 恐也 御陵奉仕 流山科 ヨルハモ助ヨノ 乃鏡山爾 夜者毛夜之 サキクサノ 盡書者 毛助ヒノ 毋日之 晩カレナム 盡哭耳 オホミヤヒトハ 大宮人者 去別南 サリ

四十一代天皇 アメノ 天渟中原瀛 ナ ハラオキ 日本紀自注云淳中此云 農雞ト

明日香清御原宮南 諡曰天武天皇 官

真人天皇

十市皇女薨時高市皇子尊御作歌三首

天武皇女 ヨ ミマリ

ヤスミシ 山ノ神トツクルマデ カミノ 十市皇 チノ 女 ミコ 尊 ト

モロノ 御 ミ 歌 ケム ツ、ト モ

三諸之 神之神須凝 已具耳矣 自得見監乍 共

此句不審強テ釈之ハ監
モミルヽミケント重詞ヨ

子ヌヨソ オホキ

不寐夜叙多 高市皇子十市皇女ヘ通ヒテ人目ヲハヾカリ久ク通ヒアハンモノヲトオルヘシ

カミサヤマノ 神山之 ヤマヘ 山邊 マ 真蘇木綿 ソユフ 短木綿 ミジカ 如此耳故爾 カクノミユヘニ 長 ナカク

アトト訓音 麻ヲテレルハ長ユフヲオヒテオルハ短ユフ

オモヒキ 等思伎 真苧ニテ作ル木綿ヲマソユフト云

ヤマブキノ 山振之 サキ 立儀足 タルヤマノシ 山清水酌爾 ミツヲハクミニ 雖行道之 ユカメトミチノ シラナク 白鳴 ユフ トモ

ナキ人ヲ白ク水ニヘ
タヽヘラレシ物ノ御琴ニ

ケフ モ カモトヒタヘハ 今日毛鴨 問給 トヒタマハル 問賜良志 神岳乃 カミヲカノ 山之 ヤマノ 黄葉 モミチヲ

仙覚新点

アス モ カモメシタマハヽ シ 明日毛鴨召賜良之 ワカオホキミノ 我大王之 ユフサレハ 暮去者 メシタマヘラム レ 召賜良之 アケクレハ 明來者

ヤスミシ 八隅知之 我大王之 ユフサレハ 暮去者 メシタマヘラム レ 召賜良之 アケクレハ 明來者

ヤマブキノ 山振之 立儀足 タルヤマノシ 山清水酌爾 ミツヲハクミニ 雖行道之 ユカメトミチノ シラナク 白鳴 ユフ トモ

天皇崩之時太后御作歌一首

カミアガリセシノチ 持統天皇ニ

カミアガリセシ ノチ 天皇崩之 時 トキ 太后 オホキサキ 御作歌 ミヅカラヨミタマヘラム レ

ワカオホキミノ 我大王之 ユフサレハ 暮去者 メシタマヘラム レ 召賜良之 アケクレハ 明來者

ヤスミシ 八隅知之 我大王之 ユフサレハ 暮去者 メシタマヘラム レ 召賜良之 アケクレハ 明來者

麻思明日毛鴨召賜良之萬吉其山乎振放見乍暮

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

サレハアヤニカナシヒアケクレバ　ウラサヒクラレアラタヘノ　コロモノソテハ
去者綾哀明來者裏佐備晩荒妙乃衣之袖者
ヒルトキモナレ
乾時文無

一書曰天皇崩之時太上天皇御製歌二首

ヒトツニハ　カミアカリ
書曰天皇崩之時太上天皇御製歌二首

ヒトツニハ　トモシヒ　モトリテ　ツヽミテフクロ　ニハイレトイハス　ヤモチコノハナ
燭火物取而裹而福路庭入澄不言八面智男
モユル長流沖
燃火物取而裹而福路庭入澄不言八面智男
（登乎）　（故支可有可考）　（知日）

ヒトツニハ　キヨタ　ヤマノタヒクモノ　アヲクモノ　（カノ御名残日コノマヽ分リ行心ヤ）
雲
（来ル）
一書曰天皇崩之時太上天皇御製歌二首
雲　キヨタ　ヤマノタヒクモノ　アヲクモノ　ホシワカレユキツキモ　ワカナレテ
向南山陣雲之青雲之星離去月牟離而
カミナミヤマ　（天子）　（矢宮）　オホンカメニセレ
向南山陣雲之青雲之星離去月牟離而
天武　（此哥ハ皇太后ヲ大切ニシホレメストノ心）　ニクカラマシルヘニ
天皇崩之後八年九月九日奉爲御齋會之夜夢裏習賜御歌一首
（崩御アリサマヲ云）　古歌集中出
愛中ノ御哥ナレハ其心得カタシ

アスカノキヨミハラノ　ニヤニアメノシタ　シラシメシヤ
明日香能清御原乃宮爾天下　所知食之八隅
天武都
シラレシワカキホキミノタカテラスヒノ
知之吾大王高照日之皇子
カミカセノ　（皇子伊勢ニミコマスコモアルニヤ）　クニノハ　オキツ
神風乃伊勢能國者奥津藻毛
ノミカヲレルクニ、　アヲニヨリアヤニトモシキ　タカテルヒノ
能味香乎禮流國爾味凝文爾之寸高照日之
ミコ　（此下脱句アラン歟）　（天武）
御子
（今案塩ヤモリ心矣日本紀薫ノ字モ香ニアテヽスブルヤウノ心）
神樂歌ラ立本
持統天皇
藤原宮御宇天皇代　高天原廣野姫天皇
後人作歟此下ノ哥共ハ此天皇二代中ノコトノミニアラス
大津皇子薨之後大來皇女從伊勢齋宮上
（妹オホクノ）　（ノボリテノ）　持統時
京之時御作歌二首

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

神風之伊勢能國爾母有益乎奈何可
君毛不有爾
欲見吾爲君毛不有爾奈何可來計武馬疲爾
移葬大津皇子屍於葛城二上山之時大來
皇女哀傷御作歌二首
宇都曾見乃人爾有吾哉從明日者二上山乎
弟世登吾將見
磯之於爾生流馬酔木乎手折目杼令視倍吉
君之在常不言爾
右一首今案不似移葬之歌蓋疑從伊勢
神宮還京之時路上見花感傷哀咽作此
歌乎日並皇子尊殯宮之時柿本朝臣人麿作
歌一首并短歌
天地之初時之久堅之天河原爾八百萬千萬
神之神集座而神分分之時爾天照日女之
命一云指上天乎波所知食登葦原乃水穂之

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

クニヲ アメツチノ ヨリアヒノ カキリレラレメスカミノ ミコトト アニクモ
國乎天地之依相之極所知行神之命等天雲
ノヤ ヘ カキワケテ (天地ト成カハリヲ云) (オハオサ) ロレノ
之八重掻別而一云天雲之 神下座奉之高照
ヒノ ワカミコ ハ アスカノ キヨメレ ミヤ
日之皇子波飛鳥之淨之宮爾 神隨太布座而
スメロキノ レキニス クニト アメノハラ イハト
天皇之敷座國等天原石門乎開神上上座奴
スヘテキ
一云神登座 イホリイマレワカ キミノミ コト ノ ミコトノ
尓之可婆 吾王皇子之命乃 天下所知食世
ハルバナノ カレコカラム (天武或ハ持統ノ御ニ) (是マテ持統ノ御ノ) (十三ハ) (日並ノ皇子ノ尊) (ナキ) (ヨシ)
者春花之貴在等望月乃滿波之計武跡天下
(栄花ニタトフ) モ ノ ヒトノ キホフ子ノ
一云四方之人乃大船之思憑而天水仰而待
ラレ 食國 イカサマニ ヒモ メシ ヒモ ユミノ ヲカニ ミヤ
爾何方爾御念食可由縁母無真弓乃崗爾宮
ヨシ ナキ
(大納)

(一云 津ノ三望月乃多田ノ水 思ノ子心 湛手 ヌルヲ 零水 景行紀)
(一云 ウツシ 鬼佛 景行紀)

ハレラフトシキマシテ ミアラ カヲ タカシリマシテ アサコトニ ミコトトハ
柱太布座御在香乎高知座而明言爾御言不
サスク ヒルヨル ツキノヒシ ア タニナリ スソノユヲニ
御問日月之數多成塗其故皇子之宮人行方
レラス モ (十三又雑古巻) (ヨシ) (ヒト) (ユクヘヲ知)
不知毛 一云刺竹之 皇子宮 人 歸邊不知爾為
(不審)

反歌二首

ヒサカタノ アメ ミルコトク アキミレ ミ
久堅乃天見如久仰見之皇子乃御門之荒巻
シシモ ソラ新古
惜毛

テラサレトヌバ タマノヨノ ツキノカク ラク オレ
アカネサス ハヤ
茜刺日者雖照有烏玉之夜渡月之隱良久惜
モ
毛

或本云以件歌為後皇子尊(高市)之時歌反也

(日並ノ皇子ノ尊)

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

或本歌一首

皇子カクレ玉ヒテモ次島猶人目ラヒテ人ナレヨリ池ミカクレヌ

シマノミヤ　マヒ
島宮勾池之放鳥人目
ヒトメ　カヅカズ
不潜阿野
（人ニ馴タル鳥ニ人メラヒテ
イケニ　クヾ
池ニハ不潜）

皇子尊宮ノ舎人等慟傷作歌二十三首

タカ　テラスワカ　ヒノミコノ　ヨロツヨ　ニ　イタメテ
高光吾日皇子乃萬代爾國所知麻之島宮婆
クニシラレ　シシマノミヤハ
（イワグヾヤト疑ヒタル）

アラビ　ナ
荒備勿行君不座十方
アレサラヾ　キミ　マサズ　トモ
（アレヌアラシ）

アサビテ
島宮上池有放鳥荒備勿行君不座十方
シマノミヤ　ウヘ　イケナル　ハナチトリ
（上ノ誤）

高光吾日皇子乃伊座世者島御門者不荒有
タカテラスワカ　ヒノミコノ　イマセ　シマノミカドハ　アレサラヾ
（アレヌアラシ）

蓋乎
（益ノ誤）

ヨソニミレ　マユミノ　ヲカモ　キニテ　セハ　トコツミカト、トノ井
外爾見之檀大和乃岡毛君座者常都御門跡侍宿
スルカモ
（今陵トナリメルラト井スル者ノナケキ名体）

為鴨
ユメニタニミサリシモノヲ　オホツカナシモ
夢爾谷不見在之物乎欝悒官出毛為鹿作日
ノクマヘ　ヲ　ツチト　トモニ　ヲヘム　トキモヒツヽ　ツカヘマツリシ　コロ　タカヒヌ
之隅回乎
（神ヤ下ニ十二サヒノクマヒノクマ河古今ニサヽノクマヒノクマ何トハ誤ヽ）

天地與共将終登念乍奉仕之情違奴
アサヒ　テル　サタノヲカヘ　ニムレ井　ツヽワガ　ナクニタヤム
朝日照佐太乃岡邊爾静居乍吾等哭涙息
トキモ　ナシ
時毛無
ミルトキニハ　タヅミナカルヽナミダトメ　ソ　カテツル
見時庭多泉流涙止曽金鶴
（ニハカクツミテ泉ト流ル水ノコトヽ）

三之日水ニ立水駄水アリ　立水ハ流水ヽ　駄水ハ溜水ヽ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

或本歌一首

皇子カクル玉ニテモ此鳥猶人目ヲヒテ人ナレヨリ池ニカクレヌ

シヽノミヤ（大和同上）イケノハナヅドリ（人ニ馴タル鳥ニ人メヲフルヽニコヒテカヅカズ）

島宮勾乃池之放鳥人目尓戀而池尓不潜

（皇子薨シ玉フニ池ノ放鳥ト共ニ）（阿野）

皇子尊宮乃舍人等慟傷作歌二十三首

（トヌ）（トネリ）（イタミテ）（クニシラレ）（シシノミヤハ）

高光我日皇子乃萬代尓國所知麻之島宮婆

（タカテラスワカヒノミコノヨロツヨニ）（シラザマシ）

母

シヽノミヤ（上ノ）イケノウヘ（アサビテ）イケナルハナヅドリ（アラビナ）

島宮上池有放鳥荒備勿行君不座十方

（タカテラスワカヒノミコノイマシセハ）（アレサラヾ）

高光吾日皇子乃伊座世者島御門者不荒有

（シヽノミヤハ）（アレスアラキ）

（益ノ誤）

蓋乎

（三之日水ニ立水駐水アリ立水ハ涙水ヽ駐水ハ油水ヽ）

（勾ハ安閑天皇ノ皇居ヽ然ルヲ日並皇子ヒニノ今ノ居処ヲシテヘルニヤ）

外尓見之檀（大和）乃岡毛君座者常都御門跡侍宿

（スルカモ）（今ハ陵トナリメルニヨト并スル者ノナケキタル体ヽ）

為鴨

（ユメニタニミサリシモノヲ）（オホツカナシ）

夢爾谷不見在之物乎欝悒（クヽ隈ワノ）官出毛為鹿作日

（島宮ノ辺ヒ）（佐水戸田）

之隅回乎

（神ヤト）（ツチト）（并十二サヒノクマヒノクヽ河古今ニサヽノクマヒノクヽ何トハ誤ヽ）

天地與共将終登念乍奉仕之情違奴

（トモニ）（ヲヘム）（ツヽワガ）（ナクニミタヤム）

（アサヒテ）（サタノヲカヘ）（ニムレ并）

朝日豆流佐太乃岡邊爾鴬居乍吾等哭涙息

（トキモ）（ナシ）

時毛無

（ミルトキニハ）（タヅミナカル）（ヽ乗ニ添水ヽ）

御立為之島乎見時庭多泉流涙止曽金鶴

（ミタヽシヽ）（カヒツル）

タチハナノシマノミヤニ ハ アカス カモ サタ ノヲカヘ ニ トノ井 ニ
橘之島宮爾者不飽鴨佐田乃岡邊爾侍宿爲
（宮仕ニテ恩ヲ蒙リシ名殘）
ユク
爾往 我身ヲ人ノ上ノヤウニヨメリ
君マシ〳〵シ時ノ樣ニ思ヒト弁ニシニ行也
タチセ シ シマヲ モ イヘ トスムトリ モ
御立爲之島乎母家跡住鳥毛
（助語ニ鳴ヅリ去ト云心ニトミノ八云ヘリ）
テ
左右
ミタチセ シ シマノ アリソヲ ケフミレハ ホヒサリシ リサ キヒ
御立爲之島之荒礒乎今見者不生有之草生
（イマ）
ニケルカモ
爾來鴨
（千年ハ海辺ノ詞ナレト鳴トヨリヨメル）
トグタチカヒシ （鷹ヲカリノコスタチナ ハ 類ユミノカ ニトヒカヘリコ
鳥垣立飼之鴈乃兒栖立去者檀岡爾飛反來
（栖ヲ垣ノ
年 ヨノ心ニ
（カモチシートヨム、源氏細流抄ニ有子細ハ不見源氏奥本抄ニハ第十二藤袴ノ巻
机帳ニミヅクキ物カリノ子ニスヱテ九物カリノ子モタリタルカモシカルト云ハ水ニ
ウキテカルキ心ナレヘ）

ワカミカト チヨ トコトハ ニ サカヘム
吾御門千代常登婆爾將榮等念而有之吾志
（常住不変ト云如シ）
カナシモ
悲毛
ヒムカシノ タキノミカトニ サモラヘド キノフモケフモ メス
東乃多藝能御門爾雖侍跡日毛今日毛召
（事ト通用ナレ）
コト モ
言毛無
哀ノアマリ未オハレマス時ノアウミヨメリ
ミツツテノイツノ ウラクサカヘ
水傳磯乃浦回乃石上自木生
（茂ク）（モ）（咲ミチ）（サク）
カモ （森ク）
鴨 （繼日本紀ニ文武天皇即位策文ニ四方食国乃手實豊ホ弁俱佐加ホ得在ト見賜ホ
ヒトヒニハ チ タヒ ニ ヰリ レ ヒムカシノ タキノミカト
一日者千遍參入之東乃大寸御門乎入不勝
（入アヘヌ又ハ負ハシ）

北雁ノ子ニアラスシテ今関東ニアルトイフ一種ノカモトス是カルカヤ源氏松草ナドニ
有吉頭ノ鳥ニ似タリ 一種ノカモトス是カルカヤ源氏松草ナドニ
ミヤ源氏松草ナドニ ホソミ ミニクタルハ此カルカヤノ子ノコトナルヘシ

常不止（トコトハ）
尋常（トハ）白天集

大木九条内大臣哥誤リ
秋ノ日ノイノ神ワアマノ人ハキクサク迫ニ遙ヤクムニ

古今萬葉ノ殿ノ谷ミカケノシテル日ノクレンケフニヤアラヌ又マウラ今俗ニ心トニト今・ワラカナレモ同マシテフシバトノヽ

ヨシモ　ナク　河路ヲ　タノヲカヘニ　カヘリ井ハ　コレヤノニ　ハシ　ニ　タレカ
所由無佐太乃岡邊爾反居者嶋御橋爾誰加
スベハム　（增）
住舞無

アトベノ　ヲ割　ヒノ　イリユケハ　ミ　（三之説ハ宮ヲ建シ）　タチセシ　ヒト
且覆日之入去者御立之島爾下座而嘆鶴鴨
天　タヘ

アサヒ　テルシヽノ　ミ　カトニ　オボツカナ　ヒト　キト　モ　セス　ハ　マ　シラ
且日照島乃御門爾欝悒人音毛不爲者眞浦
イフセクモ　オホシク　四ノ廿五ノ廿四　十九ノ卅四

ヤマタコ　奴乎ホ五ヘ　ヨナコトヲモヤツ　神功皇后紀ニハ　イトコトヨメリ

アサヒ　テル　サタノヲカヘ　ニ　ナクヤキサヽ　コノトリ
朝日照佐太乃岡邊爾鳴鳥之夜鳴變布此年
コロヲ　カハラフ

巳呂乎
神代ニモ名雖ナキアレキ鳥トアリ此年比ヨリ鳴ニヤ

ヤタコラカ　ヨルヒルト　イハス　ユク　ミチヲ　クレハ　サナガラミヤ
八多籠良家夜晝登不云行路乎吾者皆悉宮
我ナヘン草字似タレハ誤乎　ヤトノ　スル　カハラフ　ミヤノ点

道叙爲
サダノ宮ヘト并スルコヲ云ルヽ

右日本紀曰三年巳丑夏四月癸未朔乙　持統　十三日

未詳

柿本朝臣人麿獻泊瀬部皇女忍坂部皇子　ハツセベノ　共ニ天武ノ御子ヘ

歌一首并短歌

（後ノ註ヲニレハ天智ノ二皇子河嶋皇子ノ妃ニ　河嶋皇子朱鳥五年ニカクレフシテ入ラ悼テ献スルナルヘシ　卅五オ）

玉藻 えハ玉裳

トフトリノアス カハノ 朱ミリ 廿二 オフルタニモ ハ クタリセ ニ

飛鳥明日香乃河之上瀬爾生玉藻者下瀬爾
ナカレフレフタヘモナスカヨリカクヨリナヒキアヒ

流觸經玉藻成彼依此依靡相之嬬乃命乃多
タナ ツクヤハハダスラヌツルキタチニ ソヘチ ハヌハタヘノ

田名附录膚尚乎劒刀於身副不寐者鳥玉乃
ヨドコモアルラム 川嶋ニヌトフ 身ニソヘヨハラニ ヌ

夜床毋荒良無一云何所虛故名具鮫魚天氣
アラ 阿ナ 彼所ヘ川嶋ノ皇子ノ ナ 十九ノ上 サメテゲ

枕旅宿鴨爲留不相君故
アハヌ 宮 キミユノ ヒテ

反歌一首

ニキタヘノ ソテカヘシ キミタマタレ ノコスノヲスキテ マタモアハヌ

敷妙乃袖易之君玉垂之越野過去亦毛將相
枕ラカワスヘ ラチ 此ヒトハ河嶋ノ皇子ラチノスギユキ 一説又逢コヤト思ヒラチノヲヲセヨ

一云乎知野爾過奴
ヲ 又逢玉ハヤ逢タマフヒトイタミ奉レ

右或本曰葬河島皇子越智野之時獻泊瀬部皇女歌也日本紀曰朱鳥五年辛卯秋九月己巳朔丁丑淨太參皇子川島薨

明日香皇女木槨殯宮之時柿本朝臣人麿作歌一首并短歌

トフトリノアス カハノ 飛鳥明日香乃河之上瀬石橋渡 一云浪下瀬打

飛鳥明日香乃河之上瀬爾生玉藻者下瀬爾
流觸經玉藻成彼依此依靡相之嬬乃命乃多
田名附柔膚尚乎劒刀於身副不寐者鳥玉乃
夜床母荒良無一云何所虚故名具鮫魚天氣
留敷藻相屋常念而椰一云公毛玉垂乃越乃大
野之旦露爾玉藻者渥打夕霧爾衣者沾而草
枕旅宿鴨爲留不相君故

反歌一首

敷妙乃袖易之君玉垂之越野過去亦毛將相

一云乎知爾過故

八方

右或本曰葬河島皇子越智野之時獻泊瀬皇女歌也日本紀曰朱鳥五年辛卯秋九月己巳朔丁丑淨太參皇子川島薨

明日香皇女木槨殯宮之時柿本朝臣人麿作歌一首并短歌

飛鳥明日香乃河之上瀬石橋渡一云浪下瀬打

日本紀才二年橋
註ナシ并ハレニ〻
日栖ノヤウナレヨ云

師云コロアトヲ詞ヲ
語ニ不見コロハ自ラ
ト云語ヘトノ四字
ニ自因コロスオノ
口嶋ニコルノ式ニ非
乎今依相宗自ヲ
コロトヲ云因ルベキ乎

三ケ奥 待統紀

年六三ケムカワ次
路ノ嶋ノ

ハレ ワタレイシレハシノ
橋渡石橋一云生靡留玉藻毛叙絶者生流打
石浪カハモ モ助ソ タユレハ オフルシラナ
ハレオルヨ スヘセニル カハ ユル ナニ助カ モ
橋生乎爲禮流川藻毛叙千者波由流何然毛
ワカオホキミノ タテタレハ タヘ モノコトク コロヒフセハ カハモノコトク
吾王乃立者玉藻之如久許呂臥者川藻之如久
ナビキヤアヒシ ヨロシキキミ カ アサミヤヨ ワスレタマフヤ ユフミヤ ヨソムキタマフヤ
靡相之宜君之朝宮乎忘賜哉夕宮乎背賜哉
ウツソミト オモヒシ トキノハルヘニハ ハナヨリカサシ アキタテハ
宇都曾臣跡念之時春部者花折挿頭秋立者
モミチバカザシ シキタヘノ ソテタヅサハリカ ミナスニレトモ アカス モチヅキ
黄葉挿頭敷妙之袖携寝鏡成雖見不猒三五月
ノ マシメヅラシニ ヤモホヘシ キミト ミユキシテアソヒタマヒシ ミ
之益目頬染所念之君與時時幸而遊賜之御
ケムカフコ カメノミヤヨトコ ミヤトオタメタマヒテアチサハフ ヤゴトモ
食向木綿之宮乎常宮跡定賜味澤相目辭毛
モカワノミヤ

味コリト同能ヲノ多ク逢ヘ

前近ク心

物ノ乏ハヌヘ

別テヌスハマラ
ア鳥ヲ

タエヌ シカアルカモ ヤコトノタヘヌラ押ヘタルヘ アヤニ カシコミヌエ トリノ カタコヒ
絶奴然有鴨乎云所已綾爾憐宿兄鳥之片戀
ツヽ アサトリノ
嬬一云朝鳥朝露往來爲君之夏草乃念之萎
テ ユフツヽノ カ ユキカク ユキオホフキ ミレ ハオモヒヤ
而夕星之彼往此去大舩猶頭不定見者遣悶
ル コヽロモ アラス ソノコヽラ スヘモシラレヌヤ スラニ ナトノミモ ナノニモ
流情毛不在其故爲便知之也音耳毋名耳毛
タエス アメツチノ イヤトホナカク オモヒユカム ミ ナ ニ カケ ル
不絶天地之彌遠長久思將往御名爾懸世流
アヌ カ ガハヨロヅヨヽテニハ シキヤ シワカオホキミノ カタミ カコ、
朗日香河及萬代早布屋師吾王乃形見何此
モヲ 歎
焉

短歌二首

ノトカ（神十三吹、凡モ和者不吹ノナニトノ合ノカキヤウニ）

（タニトホニアリトヘ高市太子ニ立玉ヘル支證）

悵凡漢云高市皇子薨後皇太后引王公卿士於禁中謀立日嗣時群臣各挾私好衆議紛紜王子八御名（葛野也大友皇子ナリ）進奏曰我国家（ノ）為法也神代以此典（ヲ）為（メ）論（ヒ）天心誰（ラ）能敢（ヘ）（ラ）然以人事推（ヒ）之従来子称相並（ヒ）驚天位若（シ）兄弟相及則乱（レ）聖嗣（ノ）自然定矣此外誰（カ）敢（ヘ）（テ）間然乎（ト）（ヒ）前皇子在座欲（シ）（テ）言王子叱（シ）之乃止

（天武紀可考ヘ）

作歌一首并短歌

挂文忌之伎鴨（カケマクモユユシキカモ）一云由遊志（ユユシ）

明日香川四我良美渡之瀬（アスカカハシガラミワタレルセ）

（王女ノ身ニヨリテフラダトフ）

乃（ノ）與（ヨ）

杼爾賀有萬思（トニカアラマシ）一云水乃（ミノ）

杼爾加有益（トニカアラムヤモ）

明日香乃（アスカノ）

月日之（ツキヒノ）

（ミソトラモハヤ得不見）

一云（ヒトニイフ）

百将見等（モヽシバミラム）

念八方（オモヘヤモ）

一云（ヒトニイフ）

香毛（カモ）

天武ノ御宮ノ称ニ

（昔ノ宮ノ称ニ）

明日香乃真神之原爾久堅能天津御門乎懽（アスカノマカミノハラニヒサカタノアマツミカトヲカシコキ）

（常陵紀）

（天武）

（高市）

狛劔和射見我原乃行宮爾安母理座而天下（コマツルギワガミガハラノカリミヤニヤスモリマシテアメノシタ）

（高麗ノ劔ノ輪ノ心劔ノ先ノ環ノ）

治賜（ヲサメタマフ）

（ニ同ソ）

乃所聞見爲背友乃國之（キコシメシシトモノクニノ）

（席）

（天武大友軍）

之御軍士乎喚賜而千磐破（ノミイクサヒトヲメシタマヒテチハヤブル）

（部等）

仕國乎治跡（ツカフクニヲヲサメムト）

（右天皇ノ詞ニテ知ヒヲフルカニヨリテナコルナリ）

（高市ニ）

大刀取帶之大御手爾弓取持之御軍士乎安（タチトリハキシオホミテニユミトリモタシミイクサヒトヲヤス）

（ノ時ニ）

騰毛比賜齊流鼓之音者雷之聲登聞麻（アガラヒタマヒトヨメルツヾミノコエハイカヅチノコエトキクマデ）

（軍旅ノ）

（ソトモノ国神一巻ニ釈スル如ク成務紀ニ引美濃国乎）

（神十二カリテワサミ野トスモ笠ノウラニ小キ輪ツケテシヨリ緒ヲスグルヲ云）

（此集ニ十八ヤ人丸ヨリヒト、訓スルヲ正ト神七神十二十八ヤヒト）

（アトテ誘日本紀）

アスカカハンガラミワタレセル
明日香川四我良美渡之瀬
（王女ノ身マヨリエフラメトフ）
益者進留水母能
ドニカアラデシ
杼爾賀有萬思
一云水乃與
アスカカハアスタニ
明日香川明日谷一云倍
ムトヨミノトラモハヤ得不見
將見等念八方一云香毛
ワカオホキミノミナワスレセヌ
吾王御名忘世奴一云御名不所忘
ミカト日本紀
高市皇子尊城上殯宮之時柿本朝臣人麿
作歌一首并短歌

カケノクモユヽシキカモ
挂文忌之伎鴨一云由遊志
アスカノヤマニ
計禮禮ハラニ
禮ハ
天武紀
明日香乃真神之原爾久堅能天津御門乎懼

母定賜而神佐扶跡磐隱座八隅知之吾大王
ノキカシコミシ同トモノクニノ
乃所聞見爲背友乃國之真木立不破山越而
高麗ツルギワ輪ノ劍ノ先ノ環
狛劒和射見我原乃行宮爾安母理座而天下
治賜�input而云
ヲサメタマフトキカヌメタマヒシ
食國乎定賜等鳥之鳴吾妻乃國
ノミイクサ天武大友軍
之御軍士乎喚賜而千磐破人乎和爲跡不奉
ヌクニヲオサ
仕國乎治跡部等右天皇ノ御代ノ和ヒモヲノ詞ニ
ト此所始終天武紀ニ可考
タチトリハキシキホミ
大刀取帶之大御手爾弓取持之御軍士乎安
トモヒトリモタシ
騰毛比賜齊流鼓之音者雷之聲登聞麻低吹

ソトモノ国ヲ一巻ニ収ル如ク成務紀ニ引美濃国ヲ
ヲ十二カノカリテワサミ野トヨメモ笠ノウラニ小キ輪ツケテツレコリ結ラスグルヲ云
此集ニヲハヤ人モヨリヒト、訓スルラ正ヲオヲ十二ヲハヤヒト
アトテ誘日本紀

諸人之愉流麻低爾惑云聞指擧有幡之靡者
フユコナツハルサリクレハノコトニツキテ

冬木成春去來者野毎著而有火之一云冬木成春野焼
カセノムタナヒクカコトクトリモタヘタルヒノ

火風之共蘇如久良寺流乃波受乃驟三雪落
モ(発語)

大雪乃乱而来礼 又短哥久堅之一
軍ニ神助アルコト
項羽本紀曰楚又追撃至灵壁東睢水上漢軍卻為楚所挌多殺漢卒十餘万人皆入睢水為之不流囲漢王三重於是大風発屋揚木発屋揚行石窈冥晝晦楚軍大乱壊散而漢王乃得数十騎遂解楚軍大雪驟去
重好梅雪尽日云初朝妓開堅入窓會稽王道子以威儀鼓吹来助於鐘山之神奉以相國之号及堅之見中本状人若有カ

毛伊米巻渡等念麻低闇

而来禮一云霰成曾知不奉仕立向之毛露霜
余里久禮婆ケナハヘクトリノ

之消者消倍久去鳥乃相競端爾一云朝霜之消ナ者消ヌ言ノ介
(衍)(凡吹)(発語)(衍)

放箭繁計久大雪乃亂
(衍)(春ハ野ヤクノ)(ウコキミサワギ仲)

打蝉等安良之介渡會乃齊宮從神風爾伊吹惑之
ウツセミトアラヒノイツキノミヤユカミカセニ(衍)フキマトハシ

天下見者 イ忽之毛将有登一云如是無
ユフハナノサカユルトキニワガキミノミコノカムノミヤニカサリテタテマツリシヒロタヘノアサノコロモキハニヤスノ(十郡処名)カトノヒトモ

寺木綿花乃榮時爾吾大王皇子之御門之人毛
アカ子サスヒ

剌竹皇子神宮爾裝束奉而遣使御門乎一云
タケノミコノカムノミヤニカサリテタテマツリテツカハシヒロタヘノアサカユルトキニワガキミノミコノカトノヒトモ

白妙乃麻衣著垣安乃御門之原爾赤根剌日
ノアサノコロモキハニヤスノ(十郡処名)カトノヒトモアカ子サスヒ

之盡鹿白物伊波比伏管鳥玉能蓁爾至者大
ノツクルニテハエフセツヽヌバタマノイハ(這)フセツヽトリ(助語)タマノ(発語)ユラニハキホ

響流小角乃音母一伝 敲見有虎可叫乱登
ヒヾキナカレヲ ヒトノ ツタヘヨル ニ アタ ハタノ ナヒキハ
諸人之惊流麻低爾聞指舉有幡之靡者
フユコ ナリスハルサリクレ ハ ノヘコトニツキテ アケタル
冬木成春去来者野毎著而有火之一云冬木
カセノ ムタナヒクカコトク トリモタヌ ノヘヤル ニ
火乃風之共靡如久取持流乃波受乃駿三雪落
フユ ノハヤシ モ アラシカ ツロハヌ タチムカヒシ モ ツユ シモ
冬乃林爾布一云由風可毛伊巻渡等念麻低聞
ノ カレコク ヤノルキーク オホ ユキノ ミタレ テ キタレ古語
之恐久一云諸人見引放箭繁計久大雪乃亂
テ 而来禮一云霰成曾知 ソチ
而来禮一云霰成曾知
余里久禮婆 ケナハ ヘク
不奉仕立向之毛露霜
アタノ フ 友軍ノ ハシ 二間心則間ノ今ヲラハトヨメリ
之消者消倍久去鳥乃相競端爾一云朝霜之
ノ ケナハ ヘク アサシモ
消ノ者消ノ言ノ尓

打蝉等安良之尓渡會乃齊宮從神風爾伊吹惑之
セミ トモ アラシ ワタラヒノ イツキノミヤ ユ カミカセニ フキマトハシ
蘇布波之尓ヒノメモミセス常闇爾覆賜而定之
アヘニクモヲ ヒノメモミセス トコヤミニ ヲヽヒタマヒテ シツメシ
大雲乎日之目毛不令見常闇爾覆賜而定之
ミツホノクニヲ カミノミフトレキミ
水穂之國乎神隨大敷座而八隅知之吾大王
ノ アメノシタヲミヲシタマヘハ 天下ノ事ヲ君ニ委トリ那ヨロツヨニシカ
之天下申賜者萬代然之毛將有登毛安良
ノ ユフ ハナ ノサカユルトキニワカキミノ コノ カトノ ヒト モ
寺木綿花乃榮時爾吾大王皇子之御門乎一云
サス タケノミコノ カム 殯宮 ニヤニ
刺竹皇子神宮爾装束奉而遣使御門之人毛
ノアサノコロエキ ハニヤスノ 十市郡処名 ニ ハラニ アカ子 サスヒ
白妙乃麻衣著垣安乃御門之原爾赤根刺日
ノ ツリテタテマス ミ カトノ ヒト モ
之盡鹿自物伊波比伏管鳥玉能暮爾至者大
ノ ツルミテシ、ヌバタマノ ユフヘニナレハ キホ
助語 發語 イ 凡歌

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

神武御哥ニハヒモトヘルシタダミノ才三

右ハ左ノ注ヲ誤レルナリ左ノ注ニ人丸哥ニハアラズカフノサキナルベシトアルヲ正シタリ但シ人丸ノ哥ニ同ジ哥ヲヨミハベル伊予ノ温泉ノ事ヲヨメルアリ此ノ哥ニハ其事ナシ

木上（城上也処ノ訓熟記和名城戸屋ニハキノヘト可読）

新古哀傷ニアノミカトヲラサメ奉ルニミノ人丸大誤

八雲ニウヤメ池トシモフハ御誤奥多物モ同レ但墳ト植ト各擬セルカ

延喜式大和十市郡建土安神社

哭沢神社日本紀ノ神代紀ニ考ルニ和名ニハ延喜式神名帳ニ不載大和十市郡ニ哭沢建土ニアリ又哭沢都多本神社ニハアラズ神代上啼沢女命可考

トノヲ　フリサケミ　ツヽウツラナス　イハ
殿乎振放見乍鶉成伊波
ヒエ子バ　ウグヒス
比不得者春鳥之佐麻欲比
オモヒモ　イマタツキ子バコトヲサ
爾憶毛未盡者言右敷久
イマシテ　アサモ　ヨロキノウベンニヤヲ
伊座而朝毛吉木上宮乎
ニニシツ　マリニシヌ　シカレトモワカオホキミノ
隨安定座奴雖然吾大王之
ツクラヤシモリシ　カク　ヤマノ　ミヤヨロツヨ
作良志之香來山之宮萬代
ノ　コトフリサケミ　ツハタヌスキ　カケテ
之如振放見乍玉手次懸而將偲恐有騰文

短歌二首

ヒサカタノ　アメニシラスル　キミユヱ　ニ
久堅之天所知流君故爾
ハニヤスノ　イケノツヽミノ　コモリヌノ
埴安乃池之堤之隱沼乃
マトフ　働　日本紀
迷惑
人丸集

或書反歌一首

或書ニ此二首ヲ上ケテ或本ニ反歌トアル矣ト引合スレハ反ノ字誤乎

久堅之天所知流君故爾日月毛不知戀渡鴨

埴安乃池之堤之隱沼乃去方乎不知舍人者迷惑

或書反歌一首　禱祈　日本紀

哭澤之神社爾三輪須惠雖禱祈我王者高日

所知奴

右一首類聚歌林曰檜隈女王悲泣澤神社之歌也案日本紀曰持統天皇十年丙

日本紀私記曰師説神武等諡者決海御航奉勅撰

高市皇子ノ妃尸傳不詳

元明紀云和銅元年六月丙戌三品但馬内親王薨天武之皇女也

申秋七月辛丑朔庚戌後皇子尊薨

但馬皇女薨後穗積皇子冬日雪落遥望御墓悲傷流涙御作歌一首

（天武帝五（ナノ里ニ）但馬皇女ト別殿ノ御兄弟ニテ密通ノ事ニハ有リ（ナノ里ニ）吉隠（八ノ三九 十四ノ九四）字陀郡処ノ名ニ其処猪養ノ岳有リ畑明物ノ誤ニ非ス（ナノ里ニ）吉隠ニ日本ノ假名ヲ誤レリ（ナノ里ニ）才八巻坂上郎女哭才十三吉隠張又結幡紀十一年幸ス苑田ノ吉隠ナリ才八才十四首證

才三才十九ニモ是ニ似タル哭リ皇子無シニヲモ神アリトイヘカラコメリ

零雪者安幡爾勿落吉隠之猪養乃岡之塞為

（冷ニク）（安幡ハ吉隠ノ井カヒノ名ニ定ニ非ス）（八雲抄ニニモリノ井カヒノ名ニ非ス）

巻尾

延喜式ニ吉隠陵

弓削皇子薨時置始東人作歌一首并短歌

安見知之吾王高光日之皇子久堅乃天宮爾神随神等座者其予霜文爾恐美畫波毛日之

尽夜羽毛夜之尽卧居雖嘆飽不足香裳

反歌一首

王者神西座者天雲之五百重之下爾隠賜奴

又短歌一首

神樂波之志賀左射禮浪敷布爾常丹跡君之

才ホニ（小浪ハ十三ノ ガノサヽ ニ 十三ニ）

（才ホニ タリケル）

萬葉集卷二 二十七

才ニ石サヽレ荻ナドモ皆小キ心ニ

毛詩雨無正篇曰子未有室家鼠思泣血モ蓑云鼠憂泣血モ先ノ（ママ）ノ（ママ）正義云以涙出於目血出於体故以涙代血言之孔氏云人涙必因悲声而出若血出則不由声也

今無声而涙出故曰泣血

礼記檀弓上子皐葬親喪泣血三年未嘗見歯注無声而泣血是也

万葉統譜曰江次母ノ墓忽為野火所焼泣哭三日涙尽ヲ継ヘリ

死之後泣血哀慟作歌二

（ヲトメノ子死之時 悲傷 イタメテ カノ有ケ所ヘ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

申秋七月辛丑朔庚戌後皇子尊薨

但馬皇女薨後穗積皇子冬日雪落遥望御墓悲傷流涙御作歌一首

零雪者安幡爾勿落吉隱之猪養乃岡之塞爲

巻爾

延喜式古隱陵

弓削皇子薨時置始東人作歌一首

安見知之吾王高光日之皇子久堅乃天宮爾神隨神等座者其乎霜文爾恐美畫波毛日之

反歌一首

王者神西座者天雲之五百重之下爾隱賜奴

又短歌一首

神樂波之志賀左射禮浪敷布爾常毛丹跡君之所念有計類

柿本朝臣人麿妻死之後泣血哀慟作歌二首 并短歌

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

天飛ノトハ云心ニマクルモノ乎
才十才四才十二才十
カニモ
輕ハ高市郡ニ應神
天皇ノ皇居今大
カルト云
又比賣輕ノ何トハ云
蜻蛉 ヨ草云蜻蛉 蜻蛉ノ二音 名胡蝶 音勒和名加介呂布 萩葉性云一名蜻蛉上音兼名苑云虻下聲一名胡蝶 蜻蛉也
胡黎 崔豹古今注云胡黎一名胡離和名木虼蟖 蜻蛉之小而黃赤卒 古今注云赤卒一名絳騷和名阿加恵無度 蜻蛉之小赤也
魚藻詩下筐泉在良秋日長水寺昌叟詩一聯云烟綠錦鱗松懸碧荔花紅水蓼腎蜻蜓 此下句ニ若水ノ色ナトラタトヘテアタル顔ノ
古文ヤサアヲハ黃ノ古ノ假ニ出タル文字
玉梓 タヾアヅサヲマヅサト略語矢ヤルノ心アヅサハ中ニリテトリヤリスル心ニ文ヤカリヲ玉梓トヨメルコモアリ

天飛也輕路者吾妹兒之 里爾思有者懃欲見 (一云聞子ク)
腾不止行者人目乎多見 真根久往者人應知
大船之思憑而玉蜻蛉 度日乃晚去之如照月
雖言爲便世武爲便不知爾 聲耳聞而有不
去等玉梓之使乃言者梓弓聲爾聞而 耳聞而
得者吾戀千重之一隔毛 遣悶流情毛有八等

(千中ニ一ト云カ如シ)

ワキモコカレヤスイテミテ
吾妹子之不止出見之 輕市爾吾立聞者玉手
次 (大和ノ子ニ) ナラトリノオト
次 (田ノ中ニハスクモノヒトリタニ) 山爾喧鳥之 音毋不所聞玉梓道行
人毛獨谷似之不去者爲便乎無見妹之名喚
而袖曾振鶴 或本有謂之名耳聞而有不得
者句

短歌二首

アキヤマノモミチヲ
秋山之黃葉乎茂迷流妹乎將求山道不知毋
一云路不知而

天飛ノトハ云心ニマクルモノ乎
オナオ四オ十二オ十カニモ
輕ハ高市郡ニ應神天皇ノ皇居今大カルトス
又此妻輕ノ何トハ云タルヤ

カケロフ 火ヘ名中火ヲ見スル故カケロフノ名カキフノイトハツク 此說非ヘ

玉梓 タマアサヲ
マヲナト略語矢ヤルノ心アリサハ中ニリテトリヤリスル心ヨリ文カリヲ玉梓トヨメルコモアリ

アマトブヤ カルノニナシハワキモ ユガサトニ レ助 アレハ 子モコロニニクホシア
天飛也輕路者吾妹兒之里爾思有者歎欲見
ト ヤマス ユカハ ヒトシリヌヘ
腾不止行者人目乎多見真根久往者人應知
ミサ子 カツラノチモ アハムト オホブネノ
見狹根葛後毛將相等大船之
カキブチノ カクレノミコヒツヽアルニ ワタル
思憑而玉蜻磐垣淵之隱耳戀管在爾度日
クモガクルゴトオキツモノ
乃晚去之如照月雲隱如奥津藻之名延之妹者黄葉乃過伊
ヤクト タヽツサノ イヘハ アツサユミ
將言爲便世武爲便不知爾聲耳聞而有不
去等玉梓之使乃言者梓弓聲爾聞而耳
イハムスヘセムスヘシラ キヽテアリエ
得者吾戀千重之一隔毛遣悶流情毛有八等
子ハ ワカコヒノチ ヘノ ヒトヘモ
(千中並ト云カ如シ)

ワキモコカ ヤヽズ イテミヽテ 動ノイチニ ワカタチモチケハ タヽタ
吾妹子之不止出見之輕市爾吾立聞者玉手
スキウ子ヒ ノヤヽニ ナラトリノ オトトモキコエズ タヽホコノミチユキ
次乎火乃山爾喧鳥之音毋不所聞玉梓道行
田ノ白ヒハスクモノエハウヒ ヒトリタニ ニテシ ユカ子 ハスヘ
人毛獨谷似之不去者爲便乎無見妹之名喚
ヨ ヽニ イヒカナヨヒ
而袖曽振鶴 或本有謂之名耳聞而有不得
(似タル人サヘユカヌヘ) テノヽデソ フリツル ナトノミキヽテアリエ子 ニ
者句 上

短歌二首

アキヤマノ モミチヲ レヲミヽドヒヌルイモヲ
秋山之黄葉乎茂迷流妹乎將求山道不知毋
一云路 不知而

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

黄葉之落去奈倍爾玉梓之使乎見者相日所
念 柿本朝臣人麻呂妻之死後悲傷作歌
打蟬等念之時爾 一云宇都曽臣等念之
取持而吾二人 一云持而
見之趁出之堤爾立有槻木之 槻木
之春葉之茂之如久念有之妹者雖有憑有之
兒等爾者雖有世間乎背之不得者蜻火之燎
流荒野爾白妙之天領巾隠鳥自物朝立伊麻
之豆入日成隠去之鹿齒吾妹子之形見爾置

若兒乃泣毎取與物之無者鳥獣自物腋狭
持吾妹子與二人吾宿之枕付嬬屋之内爾晝
羽裳浦不樂晩之夜者裳氣衝明之嘆友世武
爲便不知爾戀友相因乎無見大鳥羽易乃山
爾吾戀流妹者伊座等人之云者石根左久見
乎名積來之吉雲曽無寸打蟬縁念之妹之珠
蜻髣髴不見思者

短歌二首

此哥一周忌ノ
拾遺哀傷ニ入ル

延喜式神名帳ニ讃岐国山田郡ニ
陵式云衾田墓

コゾミテ助シアキノツキヨハミラム世ドモアヒミシイモハ
トレサカル

年放

フスミギヨ(長哥ノ初ヒノ山ノ内ヨ)ヒキテノヤマニイモシオキテ
モナシ(ミクシ古哥曾カクノ可見ミハカレラハルキノ此ト云類ミハカレノゴトク云リ)

毛無

或本歌曰

大同小異

タツソミトオモヒシトキニタヅサヘテソカタリシ(イテタテルモヘル枝)
宇都曾臣等念之時携手吾二見之出立百兄

ツキノキノチゴチニエダサセル(テノ又)
槻木虚知鄣爾枝刺有如春葉茂姤念有之

イモニハアレドタノメリシイモニハ(雖)ドヨノナカノソムキシエ子ハカ
妹庭雖在恃有之妹庭雖有世中背不得者香

取安子ミモノラトリアタヘ(名心ヘ)

(エノカワラキ百枝杜樹神代)

ケムロフノモユルアラノニシロタヘノアサ(キルケ名音通)
切火之燎流荒野爾白栲天領巾隱鳥自物朝

タチイユキテイリヒナスカクレニシカバワレ(カリ発語助)
立伊行而入日成隱西加婆吾妹子之形見爾

キケルミトリコノコヒナクコトニトリニカスモノシレナケレハヲノコゴモワキ
置有緑兒之乞哭別取委物之無者男自物曾(アタフ)(シミ)(男カカラモ)

ハサニモチワキモコトフタリワガ子シマクラヅクツマヤノ少キニヒルハ
挿持吾妹子與二吾宿之枕附嬬屋内爾且者

ウラアレヨルハイキツキアカシ
浦不怜晩之夜者息衝明之

トモアフヨシモナミオホトリノハガヒノヤマニナガコヲハ
戀相縁無大鳥羽易山爾汝

イハ子・サクミテナヅミコシヨケクモバ
石根割見而柰積來之好雲叙

シイモカハヒシレテセハ(続日本紀文武四年二火葬始ハ此後ニ此妻死ケル乎)(秋道腰)
之妹我灰而座者

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

短歌三首

去年見而之秋月夜雖度相見之妹者益年離

衾路引出山妹置山路念遥生刀毛無

家来而吾玺乎見者玉床之外向来妹木枕

吉備津采女死時柿本朝臣人麿作歌一首

并短歌

秋山下部留妹奈用竹乃勝遠依子等者何方

爾念居可梼纏之長命乎露已曽婆朝爾置而

夕者消等言霧已曽婆夕立而明者失等言梓

弓音聞吾毋髣髴見之事悔敷乎布栲乃手枕

纏而劒刀身二副寐價牟其若草其嬬子者不怜

彌可念而寐良武時不在通過去子等我朝露乃

如也夕霧乃如也

短歌二首

樂浪之志我津子等何一云志我子我罷道之川瀬

道見者不怜毛

日月星辰ノ行度ナトカクルコハ大凡ナルコトニ凡ヲ云ニ為ニ天教ト云

玉藻ヨロサヌキハ青丹吉ナラト云ニ同

御面 旧麦本紀

中ノミナトハ讃岐国那河郡ト狭岑嶋スナハチ那河郡ニアリ今処ノ者サミシマト云コト

塩サ井 アト井浪不詳

名アリテヨシト云心本会ル詞ニ第十二ニアリ下ト云説アリ ウイノ条ノ

荒床和名抄ヲ檜皮ヲ敷同和名抄保土古図ニ榎者ゼヒト此心ニ通ル

ハキ 延喜式廿九内膳式漬年料雑菜茎高一石五斗今案ヨメカハキ手喜撰式塩漬ノ菜ヲサヘ喜高リ伊呂波字類抄ニ菊名加波良於波説此外カハオハキノ数ヲヨノスルニ今九月九日賞スル菊ニアラス思フニ和名ニ菊ヲカハラフヨモキト点セリ仍テカルニ今ヨメカハキノモヲ野菊トスヘハニヲ混メカハラオハキト云ナルヘシ 鶏腸草ヨメカハキ一説

歌一首并短歌

タヽモ ヨキサ 格物ニ枕詞トス キクニ

玉藻吉讃岐國者國柄加雖見不飽神柄加幾許貴寸天地日月與共滿將行神乃御面跡次（中ト云メメシ）

ハタヽ カルコキ アメツチノヒ ツキト トモニミチユカム カミノ ミキモト ツキテ

許貴寸天地日月與共滿將行神乃御面跡次

クルナカノ ミナト ユフナウケ テワカコギクレハ トキツカセ クモ井ニ

来中乃水門従船浮而吾擥来者時風雲居爾

那阿那ノ 阿波ミヲ オキミレハ ヤヽ井 ヤヽ井ニ ヲチコチノ シラナミトヨミ イサナ フクニ

吹爾奥見者跡位浪立邊見者白浪散動鯨魚

ハタヽ トリウミヲ カレコミユクフチノ シラナミサワキ オホケト

取海乎恐行船乃楫引折而彼此之島者雖多

檜クヽ ヒキヲリテ 横ニヒキタヽリテ舟ヲヤヽ

名細之狭峯之島乃荒礒面廬作而見者浪

ナヽ 狭ノ ミレハ アライソモ アリ ツクリテ ミレハ ナヽニノ

之音乃茂濱邊乎敷妙乃枕爾為而荒床自伏君

ヨリイ ナヽ ヘヽヲ シキタヘノ マクラニ ナヽ

之家知者往而毛将告妻知者来毛問益乎玉

カイヘシラハ ユキテモ ツケム ツヽシラハ キヽテモ トハマシヲ タヽ

桙之道太爾不知鶏慍乎待加戀良武愛妓妻

ホコノ ミチタニ シラストモ ニチカコフラム ヲヽシキ ツヽ

等者

ラハ

反歌二首

ツヽモ アラハ 皇極紀ニ一此メ下同 イホリツクリテ

梓之道乎来毛。ノ、ガ五 今案ヨ

ミチヲキモ ヤヽ。ノ、ガ五

麻之佐美乃山野上乃宇

オハギトモ云人ノ食フ物ト俗ニ云ヨメガハキ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

日月星辰ノ行度ヲトカノフオフシツノコ カアヒシヒヲオホニ イマソタヤシキ
ナトカソフルコヲ大凡ニ云ニ為リテカリ
ニ天数ト云
天數凡津子之相日於保爾見數者今叙悔

玉藻吉讃岐國者國柄加雖見不飽神柄加幾
玉藻ハ讃岐國ノ枕詞ニ用ヒタリ

讃岐狭岑島視石中死人柿本朝臣人麿作
讃岐ノ狭岑島ハ今アヤキ郡ニアリ

歌一首 并短歌

タマモ ヨキヌノ略ニ枕詞ニ用ヒタリ クニハクニカラカ ミレトモ アカヌ カミカラカコヽ
カルユキ アメツチノヒ ツキト トモニミチユカム カミノ ミキモト ツキテ
許貴寸天地日月與共滿將行神乃御面跡次
(常ニ本ニ多クミタルカ今アヤシキ)
(一本ニ云ハ塩サヒノ)
クルナカノ ミナト ユフヒウケ テワカコキクレハ トキツカセ クモ井ニ
来中乃水門從舩浮而吾擢来者時風雲居爾
那珂郡ニ
阿波ニ
フクニ オキミレハ ヤオノ ミキナミ ヤヘヲヨミカケ ヨチコチノ
吹爾奥見者跡位浪立邊見者
(一本ニ云ハ塩サヒノ)
(古語)
トリウミヲ カコミユクフチノ カヂ ヒキヲリテ 舟ヲ
取海乎恐行舩乃楫引折而彼此之
横ニキタリテ
島者雖多

ナクハレサ ミヲノ シヽノ アライソモ ミレハ
名細之狭峯之島乃荒磯面廻
(一本ニ白キヲ脱トミタリ)
トノ シケキハヽヘヲ シキタヘノ ヽクラニ ナレテ
音乃茂濱邊乎敷妙乃枕爾為而荒床自伏君
カイヘシラハ ユキテモ ツケム ツヽシラハ キテモ
之家知者往而毛将告妻知者来毛問益乎玉
ホコノ ミチタニ シラスレハ ヲヽシクモ コヽラ ヲシキ ツヽ
桙之道太爾不知鷄惶久待加戀良武妻
ラハ

等者

反歌二首

ツマモ アラハ トリテ 皇極紀ニ一ニ此ノ下同
妻毛有者採而多宜麻之佐美乃山野上乃宇
ハギ スキニ タ ラズツヤ ケスハケリト今治定ノ詞ニ
波疑過去計良受也

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

キキツナニキ　ヨルアライソシテキメヘノ
奥波来依荒礒乎色妙乃枕等巻而寐世流君
カモ　アリ　アリソ　トヘキテ　ナル
香聞
柿本朝臣人麿在石見國臨死時自傷作歌

カモヤマノイハチシル　ワレヲカモシラス
鴨山之磐根之巻有吾乎鴨不知等妹之待乍
アラム　（岩ヲカコミテ棺ヲ入ルヲ井ニキト云ヘリ此井ニキノコトカ）　（鴨山ノスソヨリ石川海ニ近シ）　（イマツクコト）　（進心得古語ニテヲヌコトヲトヲホドノ詞）　（拾遺故作）
将有

柿本朝臣人麿死時妻依羅娘子作歌二首

ケフ　ワカマツミキ　ハイシカハノカヒニ
旦今日且今日吾待君者石水貝爾　一云谷交而

アリト　イハスヤモ　（落着アリト云ヘル妻ノキヽ傳フル処）
有登不言八方　（カテマシヲ）　カチマシヲ
タヽニアハアヒモ　イシカハニ　クモタチワタレ　ミツヽシノハム
直相者相不勝石川爾雲立渡禮見乍将偲
（ソヽキミ）
丹比真人　名闕　擬柿本朝臣人麿之意
（カヘシ）
報歌一首
アラナミニ　ヨリクルタマヲ　（ミアノヌナ）　ヒロヒテワレコ、　ナリト　タレカツケナム
荒浪爾縁来玉乎　（拾遺又作）　枕爾置吾此間有跡誰将告
ナシ
無

或本歌曰

アヽサカルヒナノ　アラノニキミヲ　オモヒツヽ　アレハイケリト　モ
天離夷之荒野爾君乎置而念乍有者生刀毛

キキツナニキ　ヨルアライソシキメヘノクラ
奥波来依荒礒乎色妙乃枕等巻而寐世流君
（アリソラ枕トレナセルヘ）
香聞
（カモ）
柿本朝臣人麿在石見國臨死時自傷作歌
（ルニ）（テ）
一首　延喜式云六位以下達人称死
カモヤマノイハヒシ（助キアヌ）ケルワレヲカモ
鴨山之磐根之巻有吾乎鴨不知等妹之待乍
（岩ヲカコミテ枕ラスルヲ井シキト云ヘリ此井シキノ事ナルヘシ）
アラム　（ト　イモカニチツヽ）　（難心得古語ニテ又下ニテトヨムヘキ例）
将有　（テ拾遺故作）
柿本朝臣人麿死（スル）時妻依羅娘子作歌二首
ケフ　ワカヤツミキ　（ハイシレカハノカヒニ）
旦今日旦今日吾待君者石水貝爾（シレリテ）
（鴨山ノフモトヲ石川海ニ近シ）　（イフカヒニ）
（ライフカヒニ）
（谷ニ）交而

（ヨリアヒテ）　（ヨリアヒテ）
（ヨリアヒテ）　（ヨリアヒテ）
（ヨリアヒテ）　（ヨリアヒテ）

右一首歌作者未詳但古本以此歌載於
此次也

元明天皇宮
寧樂宮　御宇天皇代〻立宇厥平城元明元正兩代〻之宮乃平城ヘレナラノ

和銅四年歲次辛亥河邊宮人姬島松原見
(ヲトメノカナシミテ)
孃子屍悲歎作歌二首

(イモカナハチヨニナカレムヒメシマカ)
妹之名者千代爾流將流姬島之子松之末乃
(ツヱノヘニ)
(ムスマテニ)
生萬代爾

(ナニハガタシホヒナ(助字)アリソチ)
難波方鹽干勿有曾禰沈之
(ミシミシイモカ)
妹之光儀乎見卷

綾右　中納親王
ミツメセハシホ凡アラ
千姪嶋ヤ小松カウ
ヒカヘル白波

名月抄負永二年六月八日昨日以香狀示合師李朝臣
志貴皇子万葉集載歌首新古今同他任彼集撰上之人又彼
入了　今案此皇子如国史若無憚所見欤將其讀若与旋
基可同手然者御諱可無便哉各云件皇子如彼集者哥人
内春日榎井海上三人之王世貴皇子之子云〻如今示給若旋
基之音可通欤日本記点ヤキト云若有同人之疑者追号天皇
諡体始祖也不合被官名字載田原天皇可宜欤案之有
叓疑御諱可無便未決疑諡号又可憚彼御哥二首今日切
除了又処案藤原之眞入新古今了訓讀有憚兼房朝臣已
為大相国名字非殊秀逸此二人同陣奉了故有名雖叓旧
於時可存我国之故也相良道綋又今度不撰入是皆今案
所斟酌也

クルシモ
苦流思毋

元日非

九正記二年八月九日如何

(ミマカ)
親王薨時　(薨叓同)

(ハサミタチムカフタカミト)
今春日山之
和名集云帝文字集略云帝大両也音帝日本記私記云大
和名比西水日上今按俗云比布又日本紀私記云霖兼名苑云霖三
日以上雨也音林和名奈同云霖深兼名苑云細雨一名霧深
也小雨也麥木之二音和名古
ヤ誰人ニテ有ヤト名ヲ問ヘ

タマボコノ　ミチクルヒトノ　ナクナミタカモ(西本願寺本中院或本)サ(仙覚)キ(仙覚)ツレハ子ノミ
(カナシ)

秋九月志貴親王薨時

得物矢手挿立向高圓
(トリ)モ　(共一手)

(イカニイトヘハ)
山燎火乎何如問者
(モエタツヒヲ)(フレハ)(コロモ)

(ヒロクタヘノ)
野邊乃淺茅乎色付爾
(ヒロ)

(ヤ)
左右迫雨落者白妙之衣
(マセ)(ヌレハ)

(ナミタカカタラヘハコヒコロ)
涙霖霖爾(西本願寺本中院或本)
(ゾイタキスメロキノ)
(カモモトヨ)
(ナニ)
(イカ)
(カミノ)
(ミコ)
(ヲホニコノ)
(ヲホヤケヲ)
(ミタ)
(ヲサメタマフ)
(ツカヘマツラム)
(ヤ)
(ヒ)
(ヒ)
(ヒ

右一首歌作者未詳但古本以此歌載於
此次也

元明天皇宮
寧樂宮 御宇天皇代ノ五字脫ヤ元明元正兩代ヲ云ナルヘシ

和銅四年歲次辛亥河邊官人姬島松原見
嬢子屍悲歎作歌二首

妹之名者千代爾將流姬島之子松之末乃
名者千代爾將流

生萬代爾
難波方塩干勿有曽禰沈之妹之光儀乎見
巻

綾右 中務親王 三つゞセハシホ凡アラ 姫嶋ヤ小松カウ ヒニカヘル白波

元正紀 三年八月九日如何

元明ヽ非 元正天皇ヽ命本

苦流思毋

靈龜元年歲次乙卯秋九月志貴親王薨時
作歌一首并短歌

梓弓手取持而大夫之得物矢手挿立向高圓
山爾春野焼野火登見左右燎火乎何如問者
玉桙之道来人乃泣涙霖爾落者白妙之衣
涅漬而立留吾爾語久何鴨本名言聞者泣耳
師所哭語者心曽痛天皇之神之御子之御駕

周礼云喪設二門燎俗云門火

王狄上哀傷ニ不入誤笠金村

續古恋四中納言家持

ノタビノヒカリソコヘタテリタル（松明ヘ三）

之手火之光曽幾許照而有

短歌二首

タカヘトノノヘノアキハギ（芽）イタツラニサキカチルラム（思ヤル）ミル（徒）ヒトナシニ

高圓之野邊秋茅子徒開香散見人無爾

カサヤマノヘユクミチハコキダクモ（コヽヲ同多ヘ三之日ヨトヽレクモヽ）アレヌカテニヤ（ケルカモ）

御笠山野邊徃道者已伎大雲繁荒有可久爾

有勿國

右歌笠朝臣金村歌集出（一人集ニアリ又聞昏ノ歌）

或本ノ（又手）歌曰

タカヘトノノヘノアキハギナヲチリソチ（チニヤラバ君ガ散見ト續古家持集）ギミカカタミニミ

高圓之野邊乃秋茅子勿散禰君之形見爾見

ツヽシノハム

管思奴幡武

カサヤマノヘ（徒）ニコクミチコキタクモアレニケル

三笠山野邊從遊久道已伎太久母荒爾計類

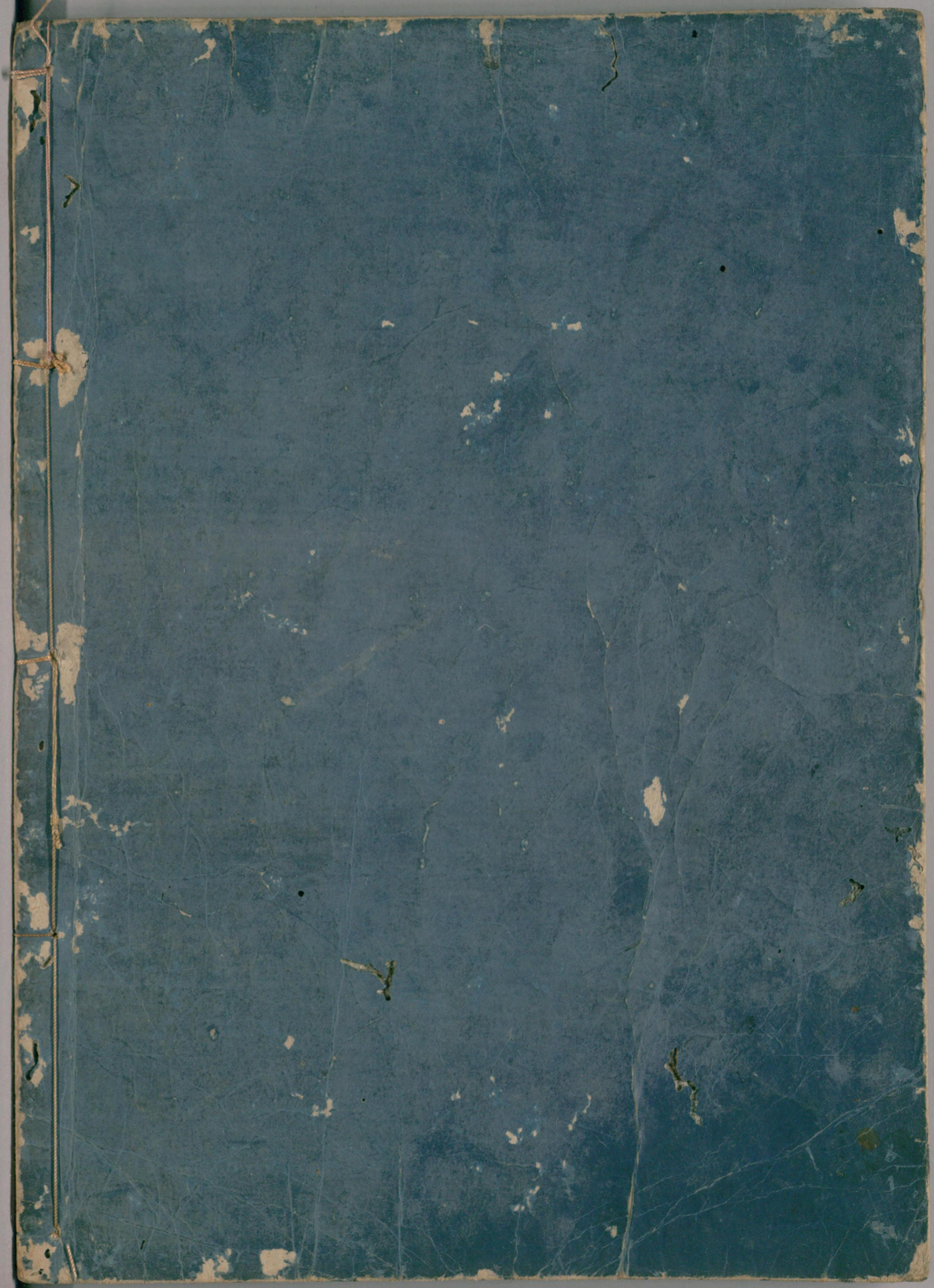
カモヒサニアラナクニ

鴨夕爾有名國

萬葉集卷第二

857
47

國立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用